ISSN 0918 − 9106

徳島県立博物館年報

第9号（平成11年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 9 (for the fiscal year of 1999)

目　　次

Ⅰ　展覧事業

1．常設展……2
2．企画展……3
3．館蔵品展「自然コレクション」……8
4．東京国立博物館所蔵考古学資料の特別陳列……9
5．常設展の更新に向けての取り組み……9
6．展示関係出版物……9

Ⅱ　調査研究事業

1．課題調査……10
2．分野別（個別）調査研究……15
3．文部省科学研究費補助金による研究…17
4．他機関との共同研究……17
5．研究成果の公表……18
6．研究会・学会等の開催……20

Ⅲ　資料収集保存事業

1．購入資料……21
2．寄贈資料……21
3．寄託資料……22
4．資料の貸し出し……22
5．特筆すべき資料の受入と整理……23
6．館蔵資料数……24
7．資料収集委員会……24
8．文献資料の収集……24
9．資料の燻蒸……25

Ⅳ　普及教育事業

1．普及行事……26
2．講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等……28
3．博物館実習生の受け入れ……29
4．博物館の広報活動……30
5．学校教育との連携……30
6．博物館友の会……31
7．普及教育関係出版物……32

Ⅴ　管理運営

1．組織・職員……33
2．予算……34
3．博物館協議会……34
4．四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部……35
5．徳島県博物館協議会……35
6．各種委員・非常勤講師等の受託……36
7．コンピュータシステム……36
8．視察等博物館関係来訪者……38

Ⅵ　観覧者統計……39

Ⅶ　施設の概要

1．沿革……42
2．施設の概要……42
3．博物館各室面積……44

Ⅷ　例規……46

Ⅰ　展　覧　事　業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は当分の間変わらない。しかし、開館10周年を迎え、常設展の更新（リニューアル）をどう図っていくかが大きな課題となっている。

企画展は、専用の企画展示室を使って年３～４回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりの資料の展示など様々なテーマをおりまぜ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

１．常設展

⑴ 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の３つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の７つの大テーマにそって展示が展開されている。

１．日本列島と四国のおいたち
２．狩人たちの足跡
３．ムラからクニへ
４．古代・中世の阿波
５．藩政のもとで
６．近代の徳島
７．徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料　など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ　など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

メガテリウム全身骨格（レプリカ）
パノクツス全身骨格及び甲羅
マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
トクソドン全身骨格（レプリカ）
スミロドン全身骨格（レプリカ）
ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

⑵ 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマをきめて随時展示替えをしている。平成11年度は次の展示を行った。

●復元された青銅器たち

５月18日(火)～８月１日(日)

遺跡から出土する青銅器を、本来の成分に近い材料で復元した資料を展示した。

●描かれた職人たち―絵に見る中世―

５月18日(火)～８月１日(日)

館蔵の職人歌合絵巻をもとに、中世の職人と身分制を紹介した。

●凧のかたち　８月３日(火)～10月11日(月)

日本各地の凧を復元制作した資料が寄贈されたのを受けて、各地の凧とその特色を紹介した。

●「発掘された日本列島'99 新発見考古速報展」地域展示　10月24日(日)～12月12日(日)

文化庁の平成11年度巡回展「新発見考古速報展」を当館企画展として開催するのに合わせ、徳島県内での最近の発掘成果を紹介する地域展示を行った。

●徳島藩主関係書状

１月５日(水)～３月26日(日)

徳島藩主蜂須賀家に関わる書状を展示した。

●来日西洋人が見た日本

１月５日(水)～３月26日(日)

明治時代に来日した西洋人が写真や銅版画で残した日本の風俗を紹介した。

●吉野川の川舟・土佐舟

吉野川では、古くから鮎漁などにカンドリ舟が使用

されてきた。この舟と高知県で使用された土佐舟とを比較展示した。

2．企画展

平成11年度は、次の３回の企画展を行った。

(1) 第１回企画展「よみがえる江戸時代絵巻ー大名行列ー」

江戸時代の大名は、徳川幕府への勤めと領国支配のもとで、多くの供揃（ともぞろえ）を従え国の内外を旅行した。この時、藩主や世継ぎなどを中心として構成された行列は大名行列と称されている。大名は参勤交代、日光参詣、将軍の警護、上使の送迎、将軍菩提寺の火の御番などにあたって、定められた供揃で勤めを果たした。一方、領国支配のもとでは、後継者の入国、輿入、藩内の巡見、参詣、葬礼などにあたって、それぞれ格式に応じた供揃による行列が行われた。これらの行列は、槍、弓、長刀、鉄砲などの武器を携え、乗物、供侍、徒士（かち）、足軽などで構成された。

この企画展は、徳川幕府への勤めと領国支配のもとで行われた各種の大名行列の様相や構成をとらえることを目的とし、併せて大名行列に用いられた乗用具をはじめ、武器、武具、調度品などの行列道具の優品を紹介した。

●期間　平成11年４月20日（火）～５月23日（日）

●会場　博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

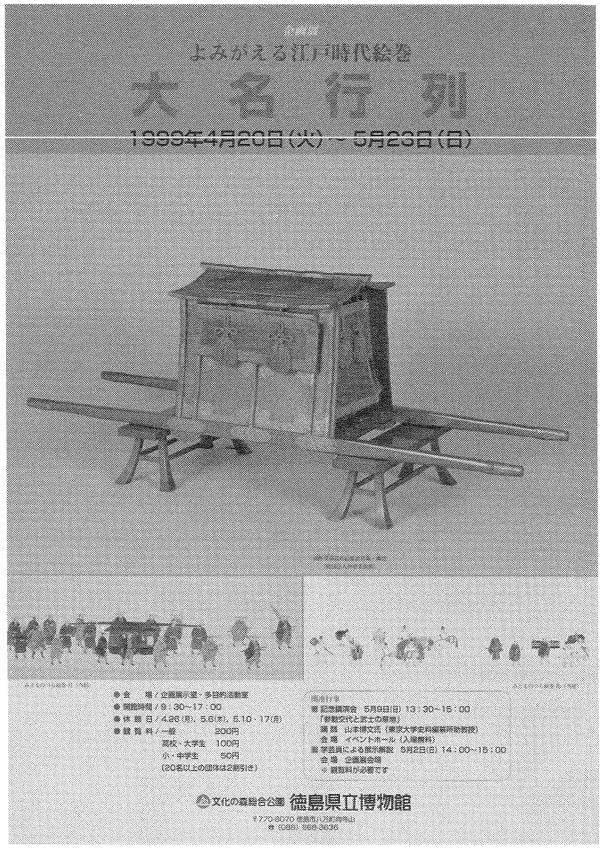
●展示内容と主な展示資料

①乗用具

剣酢漿紋蒔絵雛道具・輿（財団法人林原美術館蔵）

美作国津山藩主松平家乗物（津山市立津山郷土博物館蔵）

花文唐草蒔絵乗物（株式会社日本刀剣蔵）



②幕府への勤め

・参勤交代

武家諸法度（国文学研究資料館史料館蔵）

徳島藩参勤交代渡海図屏風（徳島市立徳島城博物館蔵）

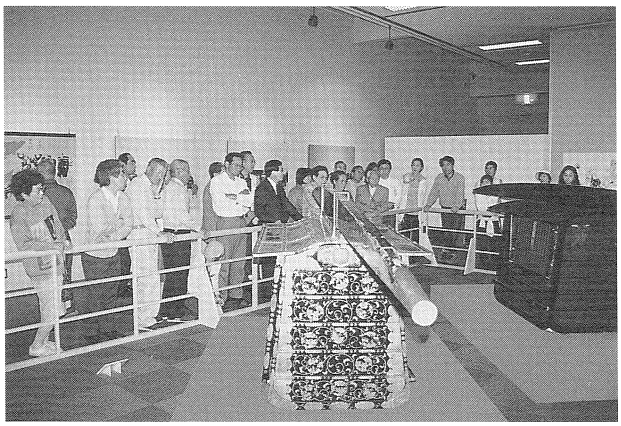
加賀藩大名行列図屏風（石川県立歴史博物館蔵）

江戸城年始登城風景図屏風（東京都江戸東京博物館蔵）

・上使、参内

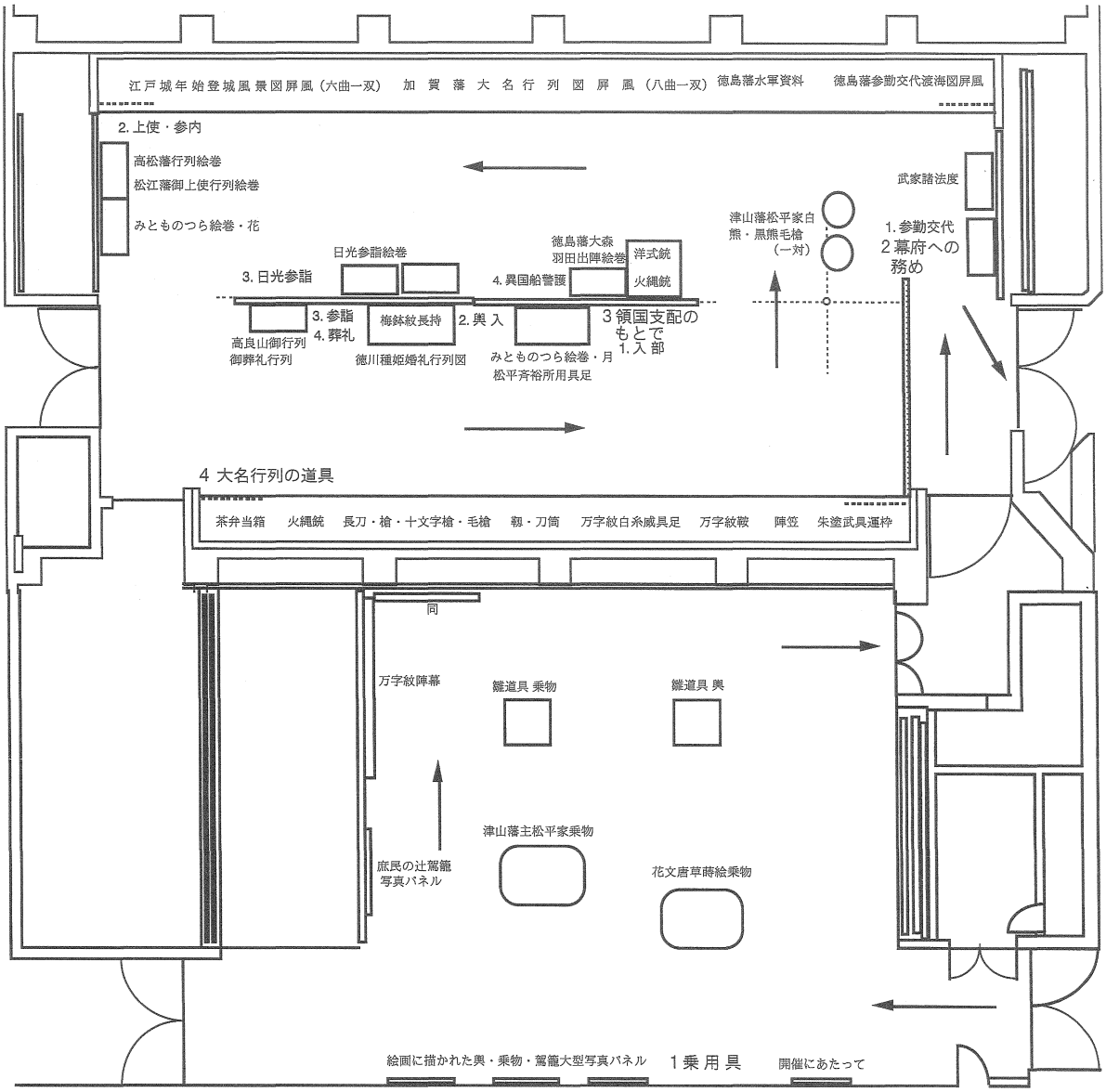
高松藩行列絵巻（当館蔵）

松江藩御上使行列絵巻（当館蔵）



企画展「よみがえる江戸時代絵巻き一大名行列一」の会場

企画展「よみがえる江戸時代絵巻一大名行列一」記念講演会（講師は山本博文氏）



・日光参詣
　日光御宮御参詣一巻（国文学研究資料館史料館蔵）
　日光参詣絵巻（当館蔵）
・異国船警護
　徳島藩大森羽田出陣絵巻（当館蔵）
　徳島藩大森羽田警衛日誌（当館蔵）
　火縄銃10匁筒（当館蔵）
　洋式銃ミニエー銃（市場町立歴史民俗資料館蔵）
③領国支配のもとで
・入部
　みとものつら絵巻　月・雪（当館蔵）
　松平斉裕所用浅葱糸素懸威胴丸具足（徳島市立徳島城博物館蔵）
・輿入
　徳川種姫婚礼行列図（和歌山市立博物館蔵）
　小倉侯婚礼行列（宮内庁書陵部蔵）
　梅鉢紋長持（藩老本多蔵品館蔵）
・参詣
　高良山御行列（宮内庁書陵部蔵）
　興源寺御参詣一件（三木ガーデン歴史資料館蔵）
・葬礼
　御葬礼行列（国文学研究資料館史料館蔵）
④大名行列の道具
　黒熊毛槍・白熊毛槍（津山市立津山郷土博物館蔵）
　左万字紋白糸威二枚胴具足（当館蔵）
　丸亀藩主京極家刀筒（祖谷宝物館蔵）
　三ツ柏紋茶弁当箱（当館蔵）
　十文字槍（徳島県指定文化財、個人蔵）
　左万字紋陣笠（徳島市立徳島城博物館蔵）
　丸亀藩主京極家床几（祖谷宝物館蔵）
　朱塗武具運枠（成巽閣蔵）

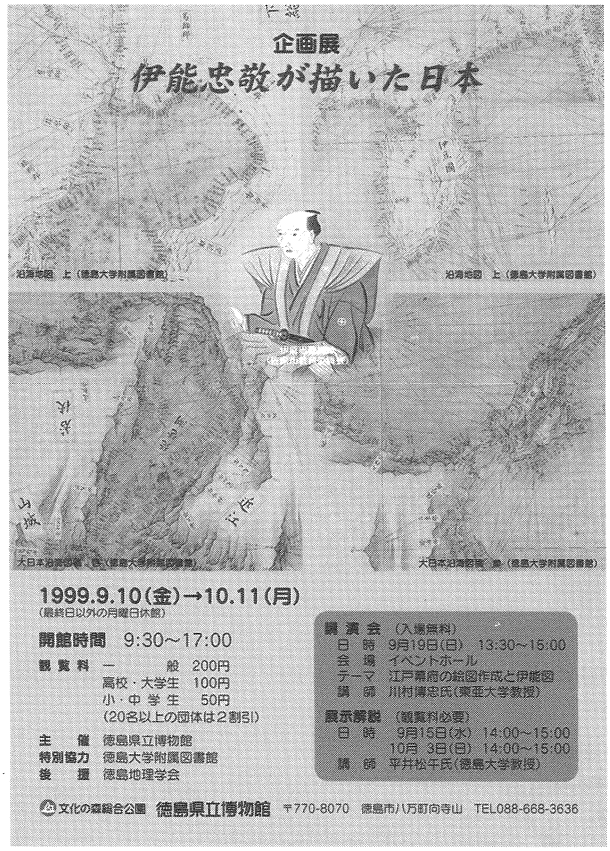
●観覧料　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
●期間中の観覧者数　3,751人
●記念講演会　5月9日(日) 13：30～15：00
講師：山本博文氏（東京大学史料編纂所助教授）
演題：参勤交代と武士の意地
会場：文化の森イベントホール
入場者：145人
●企画展解説
5月17日(日)　参加者39人

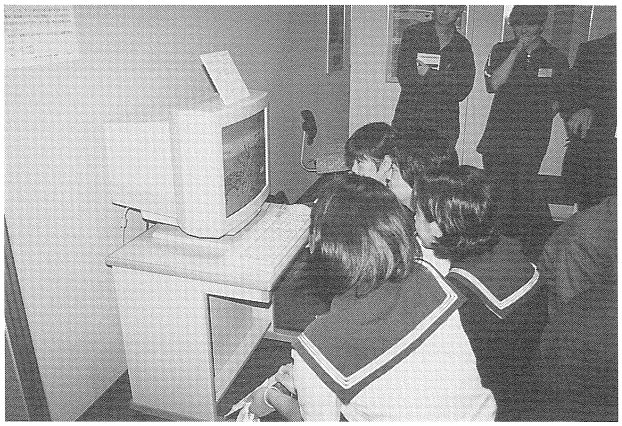
(2) 第2回企画展「伊能忠敬が描いた日本」

伊能忠敬（1745～1818）は、実測・緯度観測にもとづいた日本地図を初めて作成したことで著名で、1808年には阿波にも測量に来ている。

忠敬の作成した地図は多数知られており、徳島大学附属図書館にも所蔵されているが、これまで公開の機会はほとんどなかった。ちょうど忠敬没後180年を迎え、その人となりや技術に関心が寄せられている今日、阿波にもやって来た忠敬の足跡を考える上でも、これらの資料を展示する機会を設けることは意義深いものといえる。

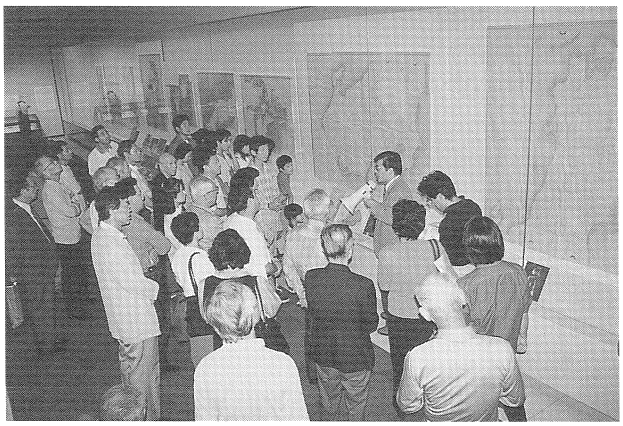
このような考えから、本企画展では、徳島大学附属図書館所蔵伊能図を中心に、忠敬の同時代の阿波の測量師の事跡や、伊能忠敬以前の地図、現代の地図など、

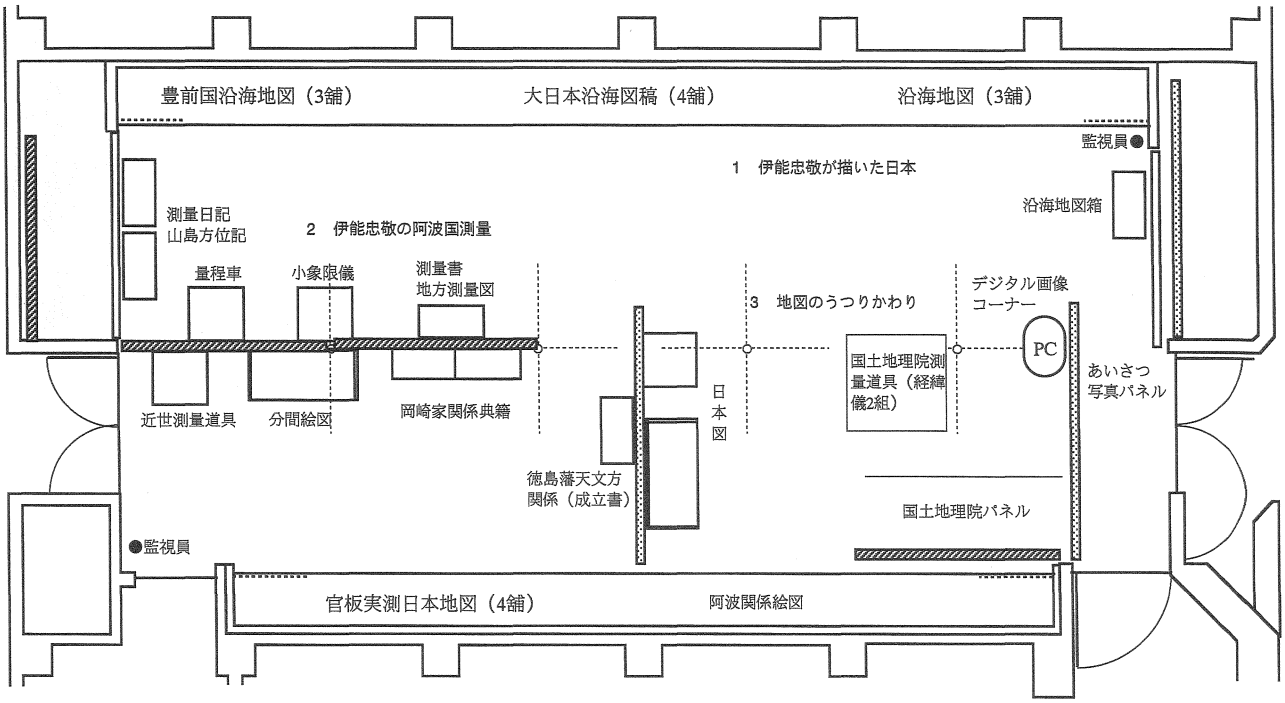



絵図の高精細デジタル画像システム

幅広く地図の世界を紹介した。徳島大学附属図書館のご厚意により、同館が製作した絵図の高精細デジタル画像の初公開の機会ともなった。

●主催　徳島県立博物館
●特別協力　徳島大学附属図書館
●後援　徳島地理学会
●期間　平成11年9月10日(金)～10月11日(日)
●会場　博物館企画展示室
●展示内容と主な展示資料
①伊能忠敬が描いた日本
沿海地図（徳島大学附属図書館蔵）
大日本沿海図稿（徳島大学附属図書館蔵）
豊前国沿海地図（徳島大学附属図書館蔵）
官板実測日本地図（徳島大学附属図書館蔵）
絵図高精細デジタル画像システム（徳島大学附属図書館蔵）
②伊能忠敬の阿波国測量
・伊能測量隊の足跡
測量日記（重要文化財、佐原市伊能忠敬記念館蔵）
量程車（複製）（佐原市伊能忠敬記念館蔵）
地方測量之図（当館蔵）


企画展「伊能忠敬が描いた日本」展示解説（講師は坪井松午氏）



・阿波の測量師と絵図
　南阿測地法（個人蔵）
　阿淡御両国絵図面（徳島県立図書館蔵）
　近世の測量道具（個人蔵）
③地図のうつりかわり－「絵図」と「地図」－
・絵図の世界
　行基菩薩説大日本国図（尼崎市教育委員会歴史博物館準備室蔵）
　日本海山潮陸図（高知県指定文化財、安芸市立歴史民俗資料館蔵）
　阿波国大絵図（当館蔵）
・現代の地図
　近現代の測量道具（国土地理院四国地方測量部蔵）

●**観覧料**　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●**期間中の観覧者数**　4,236人

●**講演会**　9月19日(日)　13：30～15：00
　講師：川村博忠氏（東亜大学教授）
　演題：江戸幕府の絵図作成と伊能図
　会場：文化の森イベントホール
　入場者：115人

●**展示解説**
　第1回：9月15日(日)　参加者107人
　第2回：10月3日(日)　参加者102人
　2回とも講師は平井松午氏（徳島大学教授）にお願いした。第2回目は、徳島大学大学院工学研究科学生により、デジタル画像を利用したプレゼンテーションが行われた。

(3) 第3回企画展「発掘された日本列島'99 新発見考古速報展」

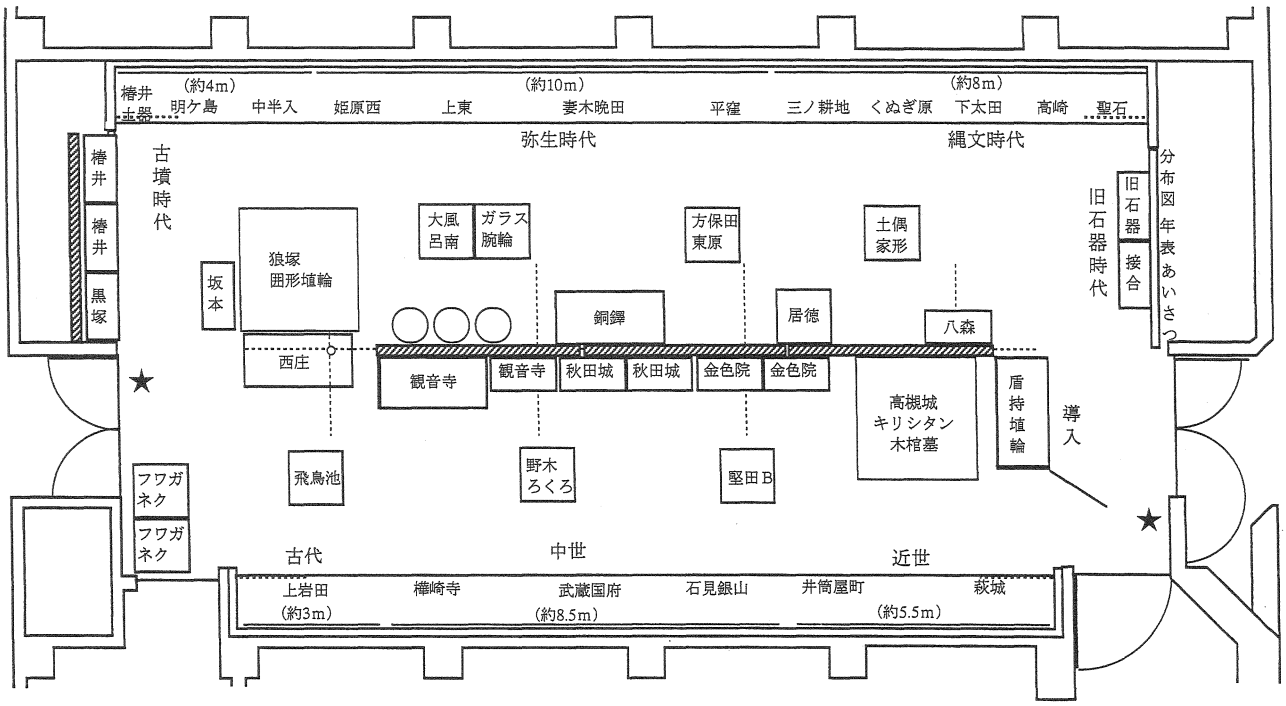
日本全国で、毎年8,000件以上の発掘調査が実施されている。文化庁では、これらの調査で発見された遺物の中から代表的なものを選りすぐって紹介するため、平成7年度から「新発見考古速報展」の巡回を行っている。当館では、11年度の巡回展を博物館企画展として開催し、全国的な発掘の動向を紹介することにした。

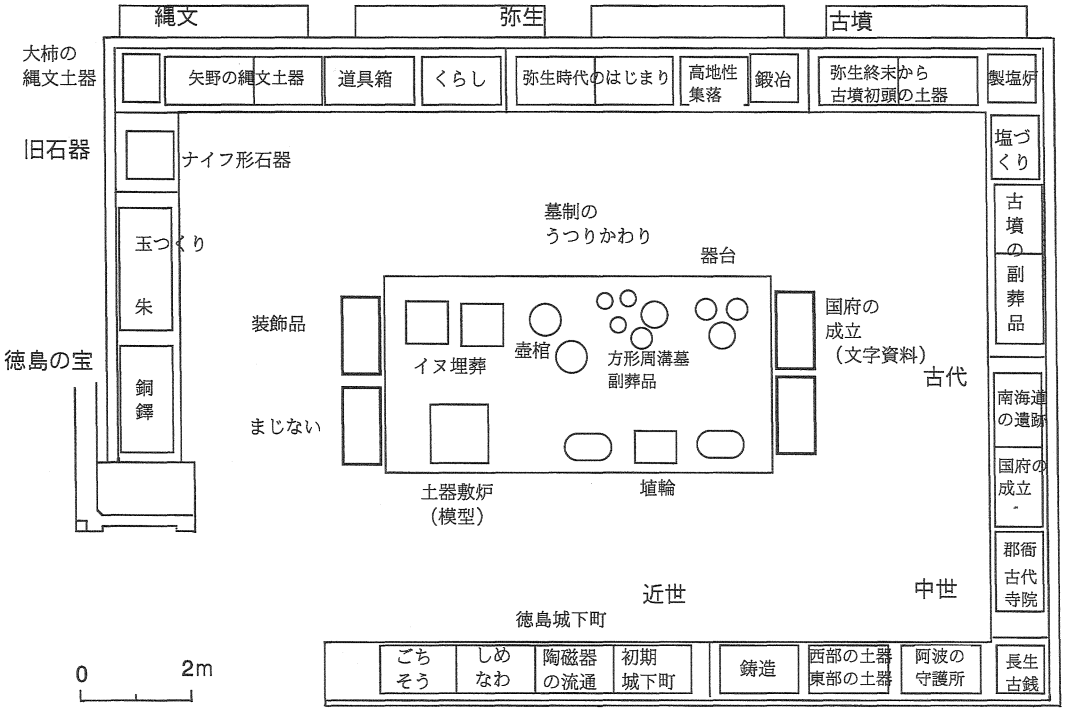
また、県内でも、徳島大学埋蔵文化財調査室、徳島県埋蔵文化財センター、徳島市教育委員会を初めとする市町村の教育委員会などによって、さかんに発掘調査が行われている。そこで、新発見考古速報展（中核展示）の開催にあわせて、最近の県内の主な発掘成果を「地域展示：掘り出された徳島の歴史」として紹介し、文化財保護の意識の高揚をはかった。

なお、地域展示については、企画展終了後も常設展示の一部として、12月12日まで期間を延長して展示した。

●**主催**　文化庁・徳島県立博物館
●**共催**　全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・全国埋蔵文化財センター法人連絡協議会
●**特別協力**　㈶徳島県埋蔵文化財センター・朝日新聞社
●**後援**　NHK
●**協賛**　㈱京都科学、㈱ジャパン通信情報センター・㈱東都文化財保存研究所

●**賛助**　アジア航測㈱・㈱パスコ・㈱フジテクノ・㈱文化財保存計画協会・国際航業㈱
●**期間**　平成11年10月24日（日）～11月21日（日）
●**会場**　博物館企画展示室および部門展示室（人文）
●**主な展示資料**
①中核展示
　平成10年に全国で発掘調査された資料のうち、旧石器時代から近世までの各時代の代表的なもの、47遺跡450点あまりを展示。
旧石器時代：柄の焼けた石やり（北海道総進不動坂遺跡）
縄文時代：土偶（青森県有戸・鳥井平遺跡）
弥生時代：ガラス腕輪（京都府大風呂南墳墓群）
古墳時代：盾持人埴輪（群馬県保渡田八幡塚古墳）
古代：富本銭（奈良県飛鳥池遺跡）
中世：経塚出土品（京都府白川金色院跡）
近世：キリシタン木棺（大阪府高槻城跡）
②地域展示
　徳島県内での最近の発掘調査の注目すべき資料、51遺跡880点あまりを展示。
旧石器時代：ナイフ形石器（阿波町日吉谷遺跡）
縄文時代：縄文土器・土面（徳島市矢野遺跡）
弥生時代：木製農具類（徳島市庄遺跡）
古墳時代：三角縁神獣鏡（徳島市宮谷古墳）・馬形埴輪（板野町川端遺跡）
古代：政所と書かれた土器（徳島市国府跡）・斎串（徳島市庄遺跡）
中世：独鈷杵（仏具、徳島市大浦遺跡）・守護所勝瑞の陶磁器（藍住町勝瑞城跡）
近世：京焼きの皿・向付（徳島市徳島城下町遺跡）
●**観覧料**　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
●**期間中の観覧者数**　4,751人





●企画展関連行事

①記念講演会　10月30日（土）13：30～15：00

講師：岡村道雄氏（文化庁記念物課主任調査官）

演題：貝塚から解き明かすゴミの歴史

会場：文化の森イベントホール

入場者：122人

②調査報告会　10月31日（日）10：00～16：00

演題及び講師：

・徳島を掘る・90年代の新発見

------ 菅原康夫（徳島県埋蔵文化財センター）

・弥生時代のはじまり・徳島市蔵本町庄・蔵本遺跡

------ 橋本達也（徳島大学埋蔵文化財調査室）

・弥生時代の棚田・三好郡三好町大柿遺跡

------ 栗林誠治（徳島県埋蔵文化財センター）

・塩づくりのムラ・鳴門市日出遺跡

------ 森清治（鳴門市教育委員会社会教育課）

・阿波国府をさぐる・徳島市国府町観音寺遺跡

------ 藤川智之（徳島県埋蔵文化財センター）

・守護町勝瑞・板野郡藍住町勝瑞城跡

------ 重見高博（藍住町教育委員会）

会場：文化の森イベントホール

入場者：173人

③展示解説

第１回：11月３日（水）　参加者37人

第２回：11月14日（日）　参加者24人

企画展「発掘された日本列島'99 新発見考古速報展」地域展示会場での展示解説

３．館蔵品展「自然コレクション」

平成11年度の３回の企画展が春と秋に集中し、夏の企画展がなくなることから、主として夏休み中の子ども向けに館蔵資料による展示会を計画した。

今回は、自然分野の収蔵資料の中から、ふだん展示機会の少ないもの、最近寄贈していただいたものなどの代表的資料を紹介した。

●期間　平成11年７月17日（土）～８月29日（日）

●会場　博物館企画展示室

●主な展示資料

世界の甲虫・蝶

世界の貝

徳島県産哺乳類・鳥類剥製

徳島県メダカ調査の中間報告

徳島県産植物・陸貝標本（阿部コレクション）

日本産植物標本（赤澤コレクション）
身のまわりにみられる植物標本
世界の鉱物・化石
徳島県産下部白亜系化石（板東コレクション）
●**観覧料**　無料
●**期間中の観覧者数**　22,372人

4．東京国立博物館所蔵考古学資料の特別陳列

文化庁の平成11年度「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」による考古資料相互貸借に基づき、東京国立博物館所蔵の徳島県内出土の考古資料を借用し、特別コーナーを設けて展示した。

●**期間**　平成11年10月15日（金）～平成12年３月１日（水）
●**会場**　博物館ラプラタ記念ホール
●**主な展示資料**
伝美馬郡脇町銅鐸
徳島市国府町源田遺跡出土品
徳島市八万町恵解山２号墳出土品　など

5．常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめどに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館５年目にあたる平成７年度から館内での検討を行ってきた（年報７号参照）。しかし、厳しい財政状況等もあって、事業化は認められなかった。今後は、早期に常設展の更新を実現するにはどうしたらよいか、内容や方法を含めた再検討を迫られている。

11年度は、10年度に引きつづき、最近展示のリニューアルや新しい取り組みを行った先進館に対する調査を行った。また、車イス使用者の視点から展示をチェックするなど、現行展示の問題点の把握にも努めた。11年度の調査館は次のとおり。

栃木県立博物館：部分的な展示更新の手法・予算措置について
神奈川県立生命の星・地球博物館：バリアフリーに対する視点とその取り組みについて
東北歴史博物館：建物移設、展示更新の参考例として

6．展示関係出版物

■**企画展図録・解説書**
●**第１回企画展図録「よみがえる江戸時代絵巻ー大名行列」**
1999年４月20日発行、Ａ４判56ページ（25カラーページ）、700部＋友の会増刷分300部
●**第２回企画展図録「伊能忠敬が描いた日本」**
1999年９月10日発行、Ａ４判32ページ（全ページカラー）、700部＋友の会増刷分300部
●**第３回企画展解説書「新発見考古速報展　地域展示：掘り出された徳島の歴史」**
1999年10月24日発行、Ａ４判８カラー図版＋72ページ、700部＋友の会増刷分300部

Ⅱ　調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じては館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長と13名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1．課題調査

平成11年度は、次の３つの課題調査を行った。

(1) 棚田をとりまく自然と暮らし

「棚田」は、急峻な山地を持ち地滑り地帯の多い徳島県を特徴づける土地利用の形態で、徳島県の「原風景」ともよべるもののひとつである。そこには、その土地を支えてきた歴史と生活のシステムがあり、棚田を維持・管理する中で二次的な自然が作られ維持されてきた。また、人の手が加わった環境の中で生活をしてきた野生生物も生息している。しかし、このような地域は過疎化が進み、棚田を支えてきた社会システムは消滅しようとしている。同時に、棚田が維持されることによって生存してきた生物相も絶滅の危機に瀕している。

本課題調査では、このような原風景としての棚田の暮らしや、棚田によって維持されてきた生物相およびそれを支えてきた環境を把握するとともに、今後、棚田やそれをとりまく自然・社会環境をトータルとして保全するためには、どのような方策をとり得るのか、ということについても検討した。徳島県内には各地に棚田が分布しているが、本調査では代表的な棚田を有する地域として、勝浦郡上勝町について調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：庄武憲子（民俗・調査主担者）・大原賢二（動物）・佐藤陽一（動物）・中尾賢一（地学）・長谷川賢二（歴史）

館外調査者：鎌田磨人・山中英生・上月康則・山口行一（徳島大学工学部）

●調査期間

本課題調査は平成10～11年度の２年間にわたって行われた。

●平成10年度調査の成果

①棚田畦畔における採草が昆虫群集の動態に及ぼす影響（担当：大原、鎌田）

草地性昆虫の生息地は採草地や牧草地であるが、日本ではこれらの土地は20年間で約半分に減少している。今後、このような半自然草原依存の生物種を維持していくためには、水田耕作に関連して維持されている畦畔の草地性生物の生息地としての機能も重要となる。このような視点から、田間の標高差が大きく広い法面を持つ棚田に注目し、その法面や畔の重要な管理形態としての草刈りを取り上げ、その頻度や時期の違いが昆虫群集の動態に及ぼす影響を調べた。

上勝町樫原地区において、５月から11月の間に畔５区、法面６区の計11の固定調査区を設け、そこで捕虫網を10回ずつ振り昆虫を捕獲した。あわせて、調査区の植生高を記録した。調査期間中の昆虫の季節変動は、６月上旬、７月上旬、８月中旬に個体数が多く、８月中旬以降には個体数は減少した。また、畔と法面で比較すると、畔よりも法面で個体数が多かった。

草刈りの頻度の多い調査区では、昆虫の総出現数が少なかった。草刈りにより昆虫数は減少したが、最後に行われた草刈りの時期の違いにより、秋以降の個体数の回復に違いが見られた。植生高と昆虫の総個体数について調査日ごとに相関係数をとり、その季節変動を調べた。その結果、夏、冬を除いて高い相関が得られた。すなわち、昆虫の活動最盛期においては、その個体数は植生高に依存していた。さらに、ハエ目とカメムシ目、ハチ目とカメムシ目それぞれの個体数の変動とそれらの間での調査日ごとの相関係数を調べた。寄生する側であるハエ目・ハチ目の個体数は、寄生される側のカメムシ目よりも調査期間を通じて多かった。また、夏、冬を除いて高い相関が得られた。

これらのことから、草地性の昆虫を維持するためには、草刈りの時期や頻度を考えながら、効率よく、経済的に管理していくことが重要であると結論された。

②棚田畦畔における環境の不均一性と植物群落の構造（担当：鎌田）

棚田の畦畔がもつ草地性生物のハビタットとしての機能に注目し、５月から11月に上勝町樫原地区で、棚田周辺の環境の不均一性と植物種の多様性や植物群落の動態との関連を探った。

まず、棚田周辺の環境を地形単位として法面と畔に区分し、さらに、それらを材質の違いから土と石垣に細分した。法面や畔における植生調査から、物理的な環境の違いを特徴づける種群を抽出することができた。また、法面では管理放棄後５年で種数や種多様度が劇的に低下していることが確認された。これはウツギ等の低木類の成長・繁茂による被陰が大きく影響していると思われる。

次に、刈り取りが群落動態に及ぼす影響を確認するために、調査地内の法面と畔それぞれ５地点に設けた固定調査区において、その中に出現した維管束植物の種別の植被率と最大高を約２週間測定した。調査地内では法面や畔の管理には除草剤等は使われていなかった。その結果、全般的に初夏と秋に種数の変動が多く、夏期に少ない傾向があった。ただし、全体的な種数は土の被覆がある法面で多く、石垣では少なかった。また、生活型構成から見ると石垣ではツル植物の割合が高かった。調査期間中の調査区内での刈り取り頻度は０～３回で、０～１回の刈り取り区での最大植生高は170cm、３回の刈り取り区では70cmであった。１年間の調査期間の中では、この刈り取り回数の違いは、それぞれの調査区内では生活型構成に違いをもたらさなかったが、一方で、刈り取り頻度の少ない調査区では頻度が高い調査区に比べて微小地上植物の割合が高い傾向にあった。

以上のことから、棚田法面において草地性の植物群落を維持するためには、年に２回から３回の刈り取りを行うことが重要であり、５年以上放置すると多様な種を維持できなくなると結論された。

③勝浦川水系における魚類相調査（担当者：佐藤）

勝浦川正木ダム下流の減水区間およびそれに隣接する正木ダム上流区間と棚野ダム下流区間、さらにこれらの区間に流入する３支川において４目８科21種の魚類が確認された。内訳は正木ダム上流区間14種、減水区間18種、棚野ダム下流区間12種、３支川全体で12種であった。地点間の様々な類似性から、減水区間の魚類相はひとつのまとまりを作っており、共通要因が働いていることが示唆された。

既存資料に基づき、1997年～1998年４月までの期間と、1998年度調査期間（1999年１月まで）の魚類相を比較したところ、減水区間において違いが見られた。特に、底生魚類相が後者の時期において増加しており、それは、1998年度に降水量が多かったことに伴う現象であることが示唆された。

④棚田の景観と生産維持管理システムの調査（担当：長谷川、庄武）

上勝町における棚田の形成過程の歴史的探求とともに、水利状況の把握や現状景観調査を行った。

上勝町域は、13世紀以降の史料に「勝浦山」と見える勝浦郡山間部の所領単位に含まれていた。その実態は不明だが、阿波国の山間部に見られる他の「山」所領の例から推定すると、平安時代後半から開発が進行し、農業生産活動が活発化したと考えられる。こうした状況が棚田の形成と一定の関連をもっていたと思われる。また、開発の進展をとらえるにあたって手がかりとなると思われる集落や寺社の分布、棟札の残存状況の調査も行った。

一方、水利や景観に関しては、上勝町樫原地区の棚田について、現在の水路の状況や水利慣行の調査を行ったほか、高知県檮原町の棚田についての景観調査を行い、上勝町の事例と比較した。

⑤棚田の保全活動についての調査（担当：山中、山口）

日本各地における棚田の保全活動のあり方について、文献から抽出しタイプ別に分類するとともに、それらの中からいくつかの活動を選定し、ヒアリング調査を行った。棚田の保全活動は、「自主営農型」、「交流共生型」、「観光開発型」、「保全運動型」の４つに類型化できる。

「自主営農型」は、最小限の基盤整備を行って耕作者に生産意欲を維持させ、付加価値を高めた米の生産により主体的に棚田の保全を図ろうとするもので、「作物の付加価値を高めること」に力点がおかれている。「交流共生型」は、オーナー制などにより棚田を都市住民に開放し、農作業を通して都市と農村住民の交流を図り、両者の力によって棚田の保護に努めようとするものである。活動では「交流の深化」や「オーナー制度の導入」に力点がおかれている。「観光開発型」は、都市の人々に農山村の自然、文化、人々との交流を楽しんでもらおうとするもので、「農作業体験」や「交流の深化」をめざした活動が多い。「保全運動型」は、他の３つの保全タイプが利用できない地域で、住民合意を得ながら保全を進めようとするものである。活動は行政等の支援によって成り立っている。

これら保全活動の運営にはおよそ３～４の団体が参加し、10人前後の人が協力している。一般に、保全活動を運営する上で必要な資金は、多少なりとも行政が援助している。特に、観光開発型、保全運動型は行政への依存度が高い。たいていの保全活動は順調に機能しているが、労働力不足、担い手の高齢化、資金不足など、棚田地域につきまとう課題を残す地域も多い。

「自主営農型」では、まず、労働に見合う収入を得るために、都市住民に棚田米に付加された価値を理解してもらうことが重要である。「交流共生型」では、オーナーとの交流を深め、長期的な耕作、後継者の獲得を目指さなければならない。今回調査を行った「観光開発型」の地域は、現在のところ大きな問題は見られない。しかし、このタイプは地域の観光ポテンシャルに左右され、観光客を呼ぶだけの素材を持つかどうかが成功の鍵となる。「保全運動型」は、耕作者が耕作をしたいと思えるように、農道等の整備を始めとする耕作受け入れ態勢を確立するとともに、地域に魅力ある特色を作りPRしなければ持続が困難になる。

⑥棚田の場が持つ魅力（アフォーダンス）の抽出

（担当：山中、山口）

棚田の場が持つ魅力を抽出することを目的として、上勝町の棚田を訪れた人や、フォトコンテストに出品された写真を見た人を対象にアンケート調査を行った。

棚田を訪れた人を対象にした調査では、棚田空間を構成しているオブジェクトのうち、「あぜの曲線」、「水の音」、「あぜの段」、「山並み」が良いオブジェクトとして認知されていた。そして、初めて棚田を訪れる人よりも、数回棚田を訪れたことのある人の方が良いと指摘するオブジェクトの数が多く、特に、「空」、「稲」、「働く人」、「草花」、「夕焼け」等のオブジェクトでこの傾向が強くなっていた。悪オブジェクトとしては、「電線」、「コンクリート構造物」、「電柱」が上位にあげられた。

このような場所で誘発される気持ち（アフォーダンス）として上位にあげられたのは、「弁当を食べたい」、「景色を眺めたい」、「昼寝をしたい」、「散歩をしたい」等であった。ここでも、棚田訪問回数が多い人の方が、より多くのやりたい項目を挙げていた。

上勝棚田フォトコンテストは、上勝町と徳島市で開催されている。これらの会場への来場者に対して、写真鑑賞後にアンケート調査を行った。その結果、「あぜの曲線」、「働く人」、「あぜの段」、「夕焼け」等が良オブジェクトの上位を占めた。特に、上勝町での調査では下位にランクされた「働く人」が約50％の回答率となっていることが注目される。一方、訪問経験回数別では大きな差は認められなかった。悪オブジェクトとしては、「電線」、「かかし」、「コンクリート構造物」、「杉林」が上位にあげられた。

こうした写真を見ながら誘発される気持ち（アフォーダンス）については、「写真を撮りたい」、「景色を眺めたい」、「散歩をしたい」、「弁当を食べたい」、「のんびりしたい」という項目が上位を占めた。写真を撮る、景色を眺めるというアフォーダンスはフォトコンテスト会場という特性によるものと考えられるが、散歩、弁当、のんびりするという項目は、現地での回答と共通しており、棚田の場が持つアフォーダンスとして注目される。

●平成11年度調査の成果

①勝浦川の魚類の分布とそれに関わる環境要因

（担当：佐藤）

平成10年度に行った勝浦川の魚類相に関する予備的調査をもとに、その分布を決定づける環境要因を明らかにするための調査を行った。11年度は、特に魚類相に与えるダムの影響に注目し、次のような調査を行った。

正木ダム下流の減水区間に３地点、その上下流に各１地点の調査区を置き、地点ごとに約10m間隔の横断線を設けた。そして、水理条件を把握するために、水深を含む横断線の測量を行うとともに、流速を測定した。これらをもとに、地点ごとに水深コンター図と流速コンター図を作成した。その後、横断線ごとに出現する魚類を、スノーケリングによる目視観察で確認した。同時に、波や石の状態、底質など７つの環境項目についても記録した。

11年度の調査では、以前に確認されていた21種のうち17種が確認された。前年の同時期における調査結果と比較して、１地点を除いて出現種が増加していた。横断線当りの種別の平均出現率と出現地点数との間には正の相関が見られた。

横断線ごとの出現／非出現データを用い、地点別の種多様性を把握するための指数として、種多様度指数 D を考案し、本年度調査結果に適用した。その結果、上流から下流の調査地点に向かうにしたがい出現種数が増加し、また、D 値も大きくなる傾向があることが判明した。ただし、減水区間の中間点の調査区においては、D 値は減少していた。こうした違いをもたらす要因については、さらなる検討が必要である。

②アンケート調査に基づく棚田の存在価値の計測

（担当：山中、上月、鎌田）

10年度に行った調査による棚田や勝浦川水系の機能評価情報を基礎として、環境財としての棚田の存在価

値を社会経済的フレームから計測した。すなわち、上勝町に520部（101部回収；20%）、上勝町周辺市町村（徳島市、小松島市、勝浦町）に1,000部（152部回収；10%）、合計1,520部のアンケートを配布し、旅行費用法による分析や、保全への支払意思額等について調査分析を行った。

上勝町民の棚田保有者による評価は、棚田の機能の評価、保全意識、他の環境財と比較した場合の棚田の重要度、保全施策に対する支払い意思額で最も高くなっていた。隣接市町村民の非農業従事者による評価では、棚田の機能評価は最も低いものの、棚田保全に対する賛成率、支払い意思額は、上勝町民の棚田保有者に次いで高く、保全施策に対する参加意思率では最も高くなっていた。隣接市町村民の農業従事者による評価では、棚田の保全意識、他の環境財と比較した場合の棚田のｄ要度、施策の参加意思率で最も低くなっていた。上勝町民の非農業従事者による評価は、支払い意思額では上勝町民の農業従事者の次に低くなっていたが、その一方で、保全施策への参加意思率は隣接市町村民の非農業従事者に次いで高くなっていた。上勝町民で棚田を持たない農業従事者は保全施策に対する支払い意思額が最も低かった。

③PCM 手法を用いた棚田保全戦略の検討（担当：山中、上月、山口、鎌田、庄武）

平成12年１月８・９日に上勝町において「棚田保全戦略を考えるワークショップ」を開催し、上勝町民、町行政者、県行政者らとともに上勝町の棚田を保全していくためにはどのような施策を用いるのがよいかを検討した。このワークショップでは、開発援助プロジェクトの計画・実施・評価といった一連のサイクルをPDM（プロジェクト・デザイン・マトリックス）を用いて運営管理するよう開発された、PCM と呼ばれる手法を用いた。ワークショップの結果は次のとおりである。

棚田保全に関わる中心問題は、「このままでは棚田が保全されない」となった。この直接原因は、「棚田の耕作が続けられない」、「耕作者が棚田の良さを知らない」、「生活者が棚田の良さを知らない」の３点だった。「棚田の耕作が続けられない」は、主として耕作の条件不利に関する問題であり、残りの２つは棚田に関する情報・認識の不足に対する問題である。

中心目的を「保全可能な棚田が増える」として、それを達成するための直接手段として考えられたものは、「現状の耕作が続けられる」、「耕作者で棚田の良さをわかっている人が多くなる」、「棚田ファンが増える」の３点である。「現状の耕作が続けられる」の具体的な手段は「耕作条件の不利を緩和すること」となった。また、「耕作者で棚田の良さをわかっている人が多くなる」の具体的な手段は「当たり前と思う人が少なくなる」、「棚田の耕作にやりがいを感じる耕作者が増える」および「田舎の生活に満足する人が増える」、「棚田ファンが増える」の具体的な手段は「情報の伝達を充実させること」となった。

耕作者をターゲットグループとし、樫原で５年間「耕作やりがいプロジェクト」を実施することを前提にPDM を作成した。この過程で、特に重要であり実現可能なものとして、「他者からの評価が伝わる」、「樫原を訪れる人が増える」が挙げられた。前者は棚田耕作者が訪問者と話しができ、意見を聞くことができるというものであり、後者は棚田に関する様々な情報を伝えるというものである。特に「棚田体験ツアー」、「棚田オーナー制」、「棚田ブランド米」等を成果とすることが目指された。これらの中で、体験ツアーやオーナー制に関しては、このワークショップに先立って行われたアンケート調査結果で比較的高い評価が得られたものであり、棚田の保全戦略として期待できるものである。

⑵ 県産オヤニラミの遺伝的分化と動物地理

オヤニラミは、日本に生息するスズキ科としては唯一の純淡水魚として知られており、近年、生息環境の悪化に伴う生息地の減少が懸念されている。そのため環境庁版レッドデータブック（1991）で希少種に指定されたほか、1999年２月の見直しでは準絶滅危惧種とされた。四国内では香川県と徳島県の一部地域にのみ分布し、徳島県では本種の分布の南東端にあたることから県の天然記念物に指定されている（桑野川における地域指定）。

本種の県内における分布は、互いに隣接した紀伊水道南部の水系に局在している。そして、本種の分布の中心である山陽地方により近く、水系規模も大きく多様な環境を含んでおり、それゆえ絶滅の可能性が低いと思われる吉野川水系には、なぜか本種はまったく生息しない。このことは動物地理学上の一つの謎といえる。

本課題調査は、分子遺伝学的な手法を中心に、地形学的・地質学的情報なども合わせて、上記の県産オヤニラミに関する問題を解明するために計画された。具体的には県産標本どうし、あるいは県外産標本とも比較することにより、両地域の遺伝的分化の程度を把握し、地史と絡めた考察を行うことを最終的な目標としている。また、将来的には、得られた成果を県産オヤニラミの保護に役立てていきたいと考えている。

本課題調査は平成10～11年度の２カ年の調査として

計画し、実施した。調査対象にはデータをクロスチェックするためにオヤニラミだけでなく、分布上および生態上オヤニラミと関係の深いコイ科のムギツク、さらに水系の地史的変遷を追跡するために適していると予想されるドジョウ科のナガレホトケドジョウなどを含めた。調査地域としては、県内のオヤニラミ生息域だけでなく、県内のムギツク・ナガレホトケドジョウ分布域および比較標本を得るために近畿～山陽地方などの県外地域も含めた。

●調査メンバー

博物館学芸員：佐藤陽一（動物）

館外調査者：小林敬典（水産庁養殖研究所）・高橋弘明（西日本科学技術研究所）

調査協力者：岡本　充（高知市）

●調査の日程

以下の調査は主として分析用の標本収集目的で実施したが、ナガレホトケドジョウの場合は分布が十分解明されているとはいえないことから、生息調査も含めて行った。

4月2～5日：広島県高梁川・芦田川・江の川水系調査

4月22日：吉野川水系鮎苦谷川・日開谷川調査

4月24～27日：滋賀県琵琶湖・淀川水系、三重県三滝川水系調査

7月9日：吉野川水系大久保谷川調査

8月24～29日：福井川・椿川・園瀬川、香川県金倉川・土器川水系調査

11月29～12月1日：吉野川水系猪谷川・山口谷川・加茂谷川・銅山川・白川谷川・藤川谷川調査

2月28～3月1日：淡路島津井川・洲本川・都志川・佐野川・浦川・天川調査

3月12～14日：那賀川水系赤松川・奥谷川・丈ヶ谷川・海川谷川、日和佐川水系調査

3月27～29日：愛媛県銅山川（新宮ダム湖流入河川）・金生川、吉野川水系馬路川・鮎苦谷川・小川　谷川、香川県財田川水系調査

●11年度の成果

分子遺伝学的解析に必要な標本を採集すると共に、とくにオヤニラミとナガレホトケドジョウについては生息状況を把握するための調査を行った。ナガレホトケドジョウについては、本調査によって県内を初め四国内における分布がかなり明らかとなってきた。すなわち、県南太平洋側では日和佐川斜面のみに分布し、牟岐川～宍喰川には分布しないこと、愛媛県では徳島県・香川県と接する中央構造線に沿った狭い地域にのみ分布することなどが確実になってきた。11年度は、とくに分布周辺部のサンプルを重点的に採集した。

なお、課題調査としては11年度で終了となるが、引き続き得られたサンプルやデータの解析を進める予定である。

(3) 前山古墳群の調査

前山古墳群は名西郡石井町の標高160mほどの尾根上に立地する2基からなる古墳群である。当館では、平成7年度に前山1号墳・2号墳の測量調査を行い、9年度に前山古墳群周辺の分布調査を行った。そして、平成10年度には前山1号墳の発掘調査に取りかかり、墳丘の規模および前方後円墳であるかどうかの確認を行った。

11年度は、これらの成果を踏まえて、前山1号墳の埋葬主体部である後円部の竪穴式石室の形態と副葬品の確認のための発掘調査を行った。また、後円部の墳形の確認もあわせて行った。

●調査メンバー

博物館職員：天羽利夫・高島芳弘・魚島純一（考古）、結城孝典（普及係）、原多賀子（文化推進員）

館外調査者：北條芳隆（徳島大学）、三宅良明（徳島市教育委員会）、奈賀哲人（石井町教育委員会）

館外協力者：谷川真基・泊甲二郎・岸田典子（徳島大学）、市川欣也（徳島市教育委員会）、栗林誠治・大北和美・原　芳伸（徳島県埋蔵文化財センター）、森　清治（鳴門市教育委員会）、多田精介

●調査日程と概要

3月3～5日：草刈り、トレンチ設定

3月5日～3月18日：墳丘・石室掘り下げ

3月18日～3月31日：測量

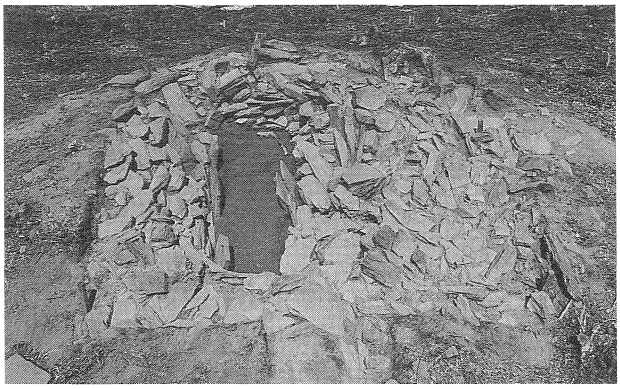
3月31日：埋め戻し、後片付け

●調査の成果

10年度までの調査で、墳丘の規模と墳形についてはおおよそ次のようなことがわかっていた。

1号墳・2号墳ともに全長18m前後の前方後円墳で

前山1号墳後円部墳丘南側トレンチでの葺き石



前山１号墳後円部の竪穴式石室（完掘）

あり、後円部と前方部の比率は１号墳ではほぼ１：１、２号墳では２：１となっている。２号墳の平面形は宮谷古墳と非常に似ているが、大きさはほぼ半分である。

１号墳は、全長17.7mの前方後円墳で、前方部長９m、後円部径9.7m程度の規模とほぼ確定した。前方部のバチ形に開く部分は、斜面全面に葺き石で覆われており、くびれ部から中央部にかけては地山を削りだして整形していた。後円部の墳丘は斜面全面に石が葺かれているわけではなく、盛り土の中へ列をなして石が埋め込まれていた。埋葬主体部はすでに盗掘を受けているが、表面からの観察では、竪穴式石室は中に箱形石棺を持つタイプだと考えらた。蓋石と思われる石は１枚だけ確認されており、長さ1.6m余りあった。

11年度の調査では、最初に後円部平坦面に東西４m・南北５mのトレンチを設定し、また後円部墳丘の南斜面に幅１mのトレンチを設定した。平坦面のトレンチでは、石室の床面まで掘り下げることができたが、北寄りは盗掘によってかなり破壊されており、床の構造などは不明だった。発掘調査によって次のようなことがわかった。

後円部墳丘の南側は、10年度に調査した東側や北側と異なり、全面が緑色片岩の葺き石に覆われていたようである。裾の部分は小口積みされ、上半では平積みされている。南西側と北側を追加調査する必要がある。

埋葬主体部は、後円部のやや西寄りに設けられている。墓壙の掘り込みと思われる前方部側と後円部の中央付近に、やや大ぶりの板状の緑色片岩が南北に並んで立っており、これを墓壙の区画としていたようである。床には赤みの強い粘土を敷き、その上に割竹形木棺を据え、東西両側に板状の緑色片岩を並べ、その側板に接するように竪穴式石室を築いている。側板と墓壙の壁の板状の石の間を埋めるように石が積まれている。箱形石棺と考えていたのは木棺を囲ったものである。

石室は南北に長く約3.1m、幅は北側で約１m、南側で約0.8mである。東壁北側と北壁の下部では緑色片岩が小口積みされているが、上半では平積みされている。石室南壁は緑色片岩の一枚板である。この主体部が墳丘の西に偏っており、その東側には小ぶりの割石が積まれていることから、東側にももう一つ石室がある可能性がある。

石室内には副葬品は全く残されていなかったが、後円部平坦面トレンチの東寄り中央付近で土師器壺のやや大きな破片がまとまって出土した。単純な口縁の広口壺のようである。

石室の構造や後円部墳丘の形態、東側の石室の有無など、今回の調査ではどれも確定させるには至らなかった。後円部全体にわたってトレンチを入れるなどの補足調査を行い、それらを確定するとともに、出土遺物と併せて検討し、古墳の築造時期を明らかにしたい。

２．分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

②日本産シュモクバエ科の生活史の調査

３月下旬に石垣島でシュモクバエ科の生活史の調査を行った。非常に天候が悪く、産卵や交尾行動などの調査は行えなかった。

③徳島県の蝶類の調査

2000年夏に開催される全国高等学校生物部会に向けて、徳島の生物に関する出版物を発行する計画があり、その中の蝶類に関する部分を担当し、現時点の概要をまとめた。

④アサギマダラの移動調査

渡りをするチョウとして有名になったアサギマダラであるが、四国はまだマーキング調査を行っている人も少なく、情報が極めて少ない。そのため、普及行事としてマーキング会を催すとともに、参加者の中から協力者を得て、鳴門市から徳島市、小松島市、阿南市および由岐町まで秋の渡りに関する調査を行った。500個体以上にマークしたが、残念ながら再捕獲された個体はなかった。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①県内の淡水魚類相調査

県下の淡水魚類相調査の一環として、県下各地で調査を行った。この調査は県環境政策課が平成７年度（淡水魚分科会は平成８年度）から実施している

県版レッドデータブック掲載種の選定に関わる調査を兼ねている。

②徳島県メダカ生息調査

平成８年度からの継続として、県内のメダカの生息調査を多数の県民の参加を得て行った（調査の目的や方法の詳細、経過については年報８号を参照のこと）。

なお、調査は11年度で終了とし、12年度に成果を取りまとめる予定である。成果の一部は、11年度日本魚類学会年会および博物館の館蔵品展「自然コレクション」（７月17日～８月29日）において公表した。

田辺　力（動物・無脊椎動物）

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を行った。

②日本産ヤスデ類の形態学的および分類学的研究

ババヤスデ属の交尾期形態の進化機構ならびに系統分類に関する研究を行った。

小川　誠（植物）

①神山町の植物相調査

平成11年度阿波学会の調査の一環として、神山町の植物相調査を行った（赤澤時之、木村晴夫氏らと共同）。

②博物館の情報提供におけるインターネットの利用に関する技術的研究

市販データベースソフトであるファイルメーカProを使い、標本データベースや植物写真データベースを公開した。

③ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、大分県での分布調査を行った。

茨木　靖（植物）

①ススキ属の比較研究

国内外の博物館、研究機関より世界各地のススキ属の標本を借用し、その異同、分布などに関しての調査を行った。

②ナルトオウギに関する基礎的研究

館蔵の種子を用いて、温度や日長などの条件を変えて発芽特性などに関する調査を行った。

両角芳郎（地学）

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するノストセラス科アンモナイトの分類学的検討を行った。

②勝浦川流域下部白亜系産化石に関する研究

夏の館蔵品展の開催にむけて、板東コレクションのアンモナイト類標本の同定作業を行った。

③中央構造線の断層露頭・断層変位地形の調査

板野町、美馬町および池田町の阿讃山地南麓で調査を行った。

中尾賢一（地学）

①沖積平野の堆積学的・古生物学的研究

高知平野の沖積層から採集された貝化石を、徳島平野のものや四国各地の貝塚の貝と比較した。また、現在の貝類相と比較するため、汽水域の貝類の調査も併せて行った。

②鮮新世～更新世の浅海棲貝化石と堆積相の調査

長崎県、高知県で化石の産状と堆積相の観察を行い、堆積環境と貝化石の関連を調べた。

③鳴門海峡海底産化石の調査

鳴門海峡海底産の更新世化石について、産出場所や化石の内訳を調べた。また、すでに採集されている化石の所在調査を行った。特にナウマンゾウ化石については、他産地のものと計測値を比較した。

天羽利夫（考古）

①薩摩駅の所在地に関する調査

平城宮出土木簡に記載されている「薩摩駅」の所在については、県南部の海岸沿いが想定されるものの、地名が現存しておらず何ら手がかりがつかめていない。それを解明するため、県南の町村史を丹念に調査するとともに、香川県大内町水主神社所蔵大般若経の調査を行った（文化財課福家清司氏、当館長谷川と共同）。

高島芳弘（考古）

①縄文時代の石鏃の形態の変異に関する調査

鮎川遺跡採集の石鏃の図化を行い、基礎資料の蓄積を行った。あわせて石器石材の確認を行った。

②企画展「発掘された日本列島'99 新発見考古速報展」の開催に向けての資料調査

地域展示の展示資料を検討するため、県内各地の出土資料の調査を行った。

魚島純一（保存科学・考古）

①X線透過撮影による銅鐸の製作技法の復元

X線透過撮影によって得られるX線画像から銅鐸の製作時の痕跡を読みとり、その製作技法の復元が可能であるかを検討する。11年度はこれまでの調査で得られたX線画像のデジタルデータ化に関する技術的な検討を中心に、画像処理やX線画像の展示手法に関する検討を行った。

②出土赤色顔料の同定

県内から出土した赤色顔料関係遺物の蛍光X線分析による同定を行った。

③外部依頼による調査

徳島市教育委員会などの依頼を受けて赤外線テレビカメラによる棟札や出土木簡の判読を行った。ま

た、徳島県埋蔵文化財センター、愛媛県埋蔵文化財調査センターなどの依頼を受けて、出土文化財の蛍光X線分析による材質調査などを行った。

山川浩實（歴史）

①武将の武器・武具調査

安土・桃山時代から江戸時代初期にかけて行われた長篠合戦、賤ヶ岳合戦、関ヶ原合戦および大坂の陣の四大合戦に関係した織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの武将の武器・武具に関する資料調査を行った。

②大名の婚礼調査

蜂須賀家の婚礼に関し、儀礼や調度品などについて文献史料から調査を行った。

③徳島藩主書状の解読調査

当館に収蔵される先代藩主蜂須賀家政から5代藩主綱矩までの書状の解読と、その背景を調査した。

長谷川賢二（歴史）

①四国遍路の形成と山伏の関係についての研究

四国遍路の形成過程と山伏の動向との関連性を想定し、現時点での展望をまとめた。

②地域社会における歴史意識の研究

近世～近代の式内忌部神社論争における古代・中世像とその性格及び形成過程を検討し、その結果をまとめた。

③美馬・三好郡の撫養街道の調査

徳島県教育委員会による歴史の道調査に参加し、上記区間の撫養街道のルート復元、街道周辺文化財の調査を行った。

④中世期書写大般若経の調査

平成11年度阿波学会調査の一環として神山町勧善寺所蔵大般若経の調査を行い、従来提供されてきた奥書に関する情報の問題と大般若経の史料的意義について検討した（文化財課福家清司氏、鳴門市教委本田　昇氏と共同）。また、香川県大内町水主神社所蔵大般若経の調査を行い、奥書の記載内容について検討した（文化財課福家清司氏、当館天羽と共同）。

⑤徳島県における部落史再構成に向けての検討

徳島県における前近代部落史の通説的見解の批判と新たなイメージ構築の方向性を検討した。

庄武憲子（民俗）

①神山町における葬送儀礼の調査

平成11年度阿波学会の調査の一環として、神山町の葬送儀礼についての調査を行った。

②神山町の暮らしについての調査

神山町史編纂にあたって、専門委員として神山町での山、川、里での暮らしぶりについて調査を行った。

大橋俊雄（美術工芸）

①徳島藩にかかわる美術作品の調査研究

藩に抱えられた絵師、工芸職人の作品について所在調査を行った。

②光悦蒔絵の研究

蜂須賀家の旧蔵になる子日棚など光悦蒔絵について調査研究し、成果を発表した。

③飯塚桃葉、谷田忠兵衛の研究

飯塚桃葉の作品の比較検討を行った。また、谷田忠兵衛の作品と文献資料を調査した。

3．文部省科学研究費補助金による研究

●**基盤研究（A）：アジア熱帯地域における陸産無脊椎動物の多様性創出機構の解明**（平成11～13年度）

研究代表者：片倉晴雄（北海道大学大学院理学研究科教授）

当館の研究協力者：田辺　力

●**基盤研究（B）一般(1)：博物館資料の保存環境としての木質空間の特質**（平成11～13年度）

研究代表者：神庭信幸（東京国立博物館学芸部保存修復管理官）

当館の研究分担者：魚島純一

4．他機関との共同研究

●**国立歴史民俗博物館共同研究：「博物館資料の保存環境」**（平成9～11年度）

研究代表者：神庭信幸（東京国立博物館学芸部保存修復管理官）

当館の共同研究員：魚島純一

●**㈳土木学会四国支部受託研究の共同研究：「正木ダムに係わる河川環境総合調査」**（平成10～15年）

研究代表者：岡部健士（徳島大学工学部教授）

当館の共同研究員：佐藤陽一

●**㈶河川環境管理財団の河川整備基金助成による共同研究：「河川下流域の周辺小水系における生物多様性の維持を目的としたビオトープネットワークの保全に関する研究」**（平成10～12年）

研究代表者：村上仁士（徳島大学大学院工学研究科教授）

当館の共同研究員：佐藤陽一

●**国立科学博物館の日本列島の自然史科学的総合研**

究：「瀬戸内海を中心とする地域の自然史科学的総合研究ー紀伊水道西部の浅海生魚類の動物地理学的研究」（平成11年度）
研究代表者：松浦敬一（国立科学博物館動物研究部室長）
当館の共同研究員：佐藤陽一

5．研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第10号

1999年３月31日発行、Ｂ５判79ページ、1,200部
（＊は館外著者）

浜野龍夫*・鎌田正幸*・田辺　力：徳島県における淡水産十脚甲殻類の分布と保全．p.１－47.
中尾賢一：高知市一宮から産出した完新世貝化石群．p.49－60.
水野晃秀*・清水孝昭*・山本孝雄*・古屋野太一*：宇和海斜面におけるオオウナギの記録．p.61－68.
小川　誠・田渕武樹*：伊島の植物(1)．p.69－74.
大原賢二・小川　誠：徳島県におけるブタクサハムシの記録．p.75－79.

(2) 博物館ニュース“Culture Club”欄記事

田辺　力：おかずの博物学．No.35，p.２－３.
大橋俊雄：守住貫魚と模型制作．No.36，p.２－３.
茨木　靖：おばけキャベツ!?－レウム・ノビレは温室植物－．No.37，p.２－３.
魚島純一：災害から文化財を守る．No.38，p.２－３.

(3) 当館刊行物以外への掲載

（＊印は館外の研究者）

〈動物〉

大原賢二（1999.３）タイワンマメヒラタアブの八重山諸島からの記録．はなあぶ,(7)：25－28.
大原賢二（1999.７）ホタル：シリーズ生き物たちの悲鳴－急激な環境変化の中で－１．徳島新聞７月26日朝刊.
大原賢二（1999.７）タガメ：シリーズ生き物たちの悲鳴－急激な環境変化の中で－２．徳島新聞７月27日朝刊.
大原賢二（1999.９）ハナアブの生活から．インセクタリウム，36(9)：34－38.
大原賢二（1999.９）日本のシュモクバエ．インセクタリウム，36(9)：45.
上月康則*・村上仁士*・佐藤陽一・森　裕行*・佐良家康*・三浦大介*（1999.５）メダカの生息阻害要因に関する実験．平成11年度土木学会四国支部第５回技術研究発表会講演概要集：402－403.
上月康則*・村上仁士*・佐藤陽一・佐良家康*・森裕行*（1999.９）潅漑期と非潅漑期の用水路網内の魚類分布に関する考察．土木学会第54回年次学術講演会講演概要集，共通セッション：262－263.
佐藤陽一（1999.７）アオギス：シリーズ生き物たちの悲鳴－急激な環境変化の中で－３．徳島新聞７月28日朝刊.
佐藤陽一（1999.９）進化分類の方法．松浦啓一・宮正樹編「魚の自然史―水中の進化学―」，北海道大学図書刊行会：24－41.
佐藤陽一（2000.２）魚への影響を科学的に調べるべき．週間釣りサンデー，25(7)：37－39.
佐藤陽一（2000.３）カライワシ目；ニシン目．岡村収・雨岡邦夫編「山渓カラー名鑑：日本の海水魚，第２版」，山と渓谷社：67；91－93.
佐藤陽一・上月康則*・村上仁士*・佐良家康*（1999.10）徳島県におけるメダカの生息状況．1999年度日本魚類学会年会講演要旨：60.
佐藤陽一・岡部健士*（2000.３）魚類調査．河川環境調査委員会編「河川環境調査　勝浦川：勝浦郡上勝町～勝浦町，平成11年３月」，㈳土木学会：７章，１－９.
Sato,Y. and T.Uyeno*(1999.12) *Sardinella miyanoshitaensis*, a new clupeid fish from the Middle Miocene Tottori Group, Tottori Prefecture, Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Ser. C* (*Geology & Paleontology*), 25 (3, 4) : 129-141.
西栄三郎*・岡崎孝博*・田辺　力（1999.６）徳島県沖から採集されたミツクリウロコムシ *Eupolyodentes gulo* (Grube) のものと思われる巨大な吻．南紀生物，41：57－60.
田辺　力（1999.７）ヤスデ：シリーズ生き物たちの悲鳴－急激な環境変化の中で－５．徳島新聞７月30日朝刊.
田辺　力（2000.１）あわ博物誌－この逸品20；21：アワマイマイ；タカラガイ．読売新聞（徳島版）１月６日；１月13日朝刊.
Tanabe, T.(1999.7) Morphometrics in *Parafontaria tonominea* species complex (Diplopoda, Xystodesmidae). *Fragmenta Faunistica*, 42, Supplement : 58.

〈植物〉

木下　覚*・小川　誠・小山博滋*・太田道人*（1999.12）帰化植物ナルトサワギクの学名．植物分類地理，50(2)：243－245.
小川　誠（1999.７）ヨモギ：シリーズ生き物たちの

悲鳴－急激な環境変化の中で－４．徳島新聞７月29日朝刊．

小川　誠（1999．９）増加する帰化植物．四国生きものネットワークニュース第５号．

小川　誠・木下　覺*・木村晴夫*・赤澤時之*・田淵武樹*・木内和美*・水上敏夫*・小松研一*・片山泰雄*・真鍋邦男*（1999．３）穴吹町の植物相．阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告：穴吹町」(阿波学会紀要45号)，徳島県立図書館：31－43．

〈地学〉

両角芳郎（1999.10－11）あわ博物誌－この逸品10；11；12：イグアノドン科恐竜の歯；プラビトセラス（異常巻きアンモナイト）；スミロドン（剣歯猫類）．読売新聞（徳島版）10月21日；10月28日；11月４日朝刊．

中尾賢一（1999.12）あわ博誌－この逸品16；17：ナウマンゾウ化石（鳴門海峡海底産）；ネレイテス（竹ケ島の生痕化石）．読売新聞（徳島版）12月２日；12月９日朝刊．

中尾賢一（2000．１）あわ博物誌－この逸品22：宍喰の漣痕－水流や地形知る手がかりに．読売新聞（徳島版）１月20日朝刊．

〈考古〉

魚島純一（1999．９）博物館の医者・コンサベーターの仕事．㈶元興寺文化財研究所創立30周年・奈良大学文学部文化財学科設立20周年記念講演会事務局編「保存科学の今そして未来」：54－62．

魚島純一（2000．２）徳島県立博物館における非破壊調査．保存科学研究集会2000－非破壊手法による考古学資料の分析・観察－，奈良国立文化財研究所：V37－V40．

〈歴史〉

山川浩實（1999．９）あわ博物誌－この逸品５；６：徳島藩主印；徳島城通行鑑札．読売新聞（徳島版）９月16日；９月23日朝刊．

長谷川賢二（1999．３）加茂一里松から辻一里松；辻一里松から岩鼻一里松；細野一里松から馬路一里松；馬路一里松から佐野一里松；佐野一里松から国境まで．徳島県教育委員会編「徳島県歴史の道調査報告書２：伊予街道」，徳島県教育委員会：40－44；49－56．

長谷川賢二（1999．９）あわ博物誌－この逸品７：大日本沿海図稿．読売新聞（徳島版）９月30日朝刊．

長谷川賢二（2000．２）公立博物館の展示と歴史学研究．歴史評論（598）：24－35．

長谷川賢二（2000．２）中世；文献解題（分担執筆）．平凡社地方資料センター編「日本歴史地名大系37：徳島県の地名」，平凡社，812pp．

長谷川賢二（2000．３）式内忌部神社所在地論争における古代・中世へのまなざし．徳島地方史研究会創立30周年記念論集刊行委員会編「阿波・歴史と民衆Ⅲ」：249－281．

井上章生*・亀島敬司*・澤田孝利*・杉本　良*・反田卓*・長谷川賢二・秦　忠義*・三好昭一郎*・森本嘉訓*・吉原明則*（1998．３）徳島県教育委員会編「徳島県同和地区民俗文化史調査報告書４」，徳島県教育委員会，70pp．

桑村忠史*・長谷川賢二・三宅康仁*・結城孝典・吉原明則*・吉原稔祐*（1999．３）徳島県教育委員会文化財課編「徳島県同和地区民俗文化史調査に基づく小・中学校同和教育資料集」，徳島県教育委員会，35pp．

生駒佳也*・尾崎清治*・桑村忠史*・柴田忠義*・武知忠義*・徳山富子*・長谷川賢二・坂東英雄*・松浦廣美*・松本　博*・森口雅彦*・紋田正博*（2000．３）㈶徳島県同和対策推進会編「財団法人徳島県同和対策推進会30年の歩み」，財団法人徳島県同和対策推進会，226pp．

〈民俗〉

庄武憲子（1999．８）鳴門史学会研究大会に寄せて〈上〉：阿波漁村の祭礼－船ダンジリを中心に．徳島新聞８月20日朝刊．

庄武憲子（1999．９）あわ博物誌－この逸品３：阿波の凧．読売新聞（徳島版）９月２日朝刊．

吉成直樹*・庄武憲子（2000．３）南西諸島における基層根栽農耕文化の諸相．沖縄文化研究（26）：235－310．

〈美術工芸〉

大橋俊雄（1999．９）あわ博物誌－この逸品４：庸八焼梅の画水指．読売新聞（徳島版）９月９日朝刊．

大橋俊雄（1999.11）伝光悦作　子日蒔絵棚・扇面鳥兜螺鈿蒔絵料紙箱・舞楽螺鈿蒔絵硯箱の再検討－光悦作の伝承はいつ生じたか－．漆工史（22）：74－85．

(4) 学会・研究会等での発表

（＊印は館外の研究者）

上月康則*・村上仁士*・佐藤陽一・森　裕行*・佐良家康*・三浦大介*（1999．５）メダカの生息阻害要因に関する実験．平成11年度土木学会四国支部第５回技術研究発表会（高松）

上月康則*・村上仁士*・佐藤陽一・佐良家康*・森裕行*（1999．９）潅漑期と非潅漑期の用水路網内の魚類分布に関する考察．土木学会第54回年次学術講

演会共通セッション（広島）

佐藤陽一・上月康則*・村上仁士*・佐良家康*（1999.10）徳島県におけるメダカの生息状況．1999年度日本魚類学会年会（福岡）

Tanabe, T.(1999.7) Morphometrics in *Parafontaria tonominea* species complex (Diplopoda, Xystodesmidae). 11 th International Congress of Myriapodology (Bialowieza, ポーランド)

田辺　力（1999．8）ババヤスデ属における交尾器の形とコスト．日本蜘蛛学会第31回大会（広島）

田辺　力（1999．8）関西のババヤスデ属一種群における形態の地理的変異．日本蜘蛛学会第31回大会シンポジウム（広島）

田辺　力（1999．9）ババヤスデ属の一種群における形態差と生殖隔離の関係．日本昆虫学会第59回大会（松山）

田辺　力（1999．9）ババヤスデの交尾器形態．'99昆虫分類学若手懇談会シンポジウム（松山）

小川　誠（1999.11）身近な植物の倍数性について．四国植物研究会（香川）

中尾賢一（1999．8）鳴門海峡のナウマンゾウ化石．地学団体研究会第53回総会（長野）

中尾賢一（1999．9）長崎県島原半島南部の下部～中部更新統北有馬層の堆積環境と貝化石．日本古生物学会ワークショップ「海産無脊椎動物の古生態学」（土佐）

長谷川賢二（1999．7）式内忌部神社論争における歴史認識をめぐって．徳島地方史研究会例会（徳島）

長谷川賢二（2000．2）史料保存ネットワークの可能性．第５回四国地区歴史系学芸員・アーキビスト交流集会（高松）

高島芳弘・魚島純一・北條ゆうこ（1999．6）出土遺物の実体顕微鏡観察のすすめ．日本文化財科学会第16回大会（奈良）

魚島純一・小泉武寛*（1999．6）Ｘ線透過撮影による銅鐸製作技法復元の可能性．日本文化財科学会第16回大会（奈良）

魚島純一（1999．9）博物館の医者・コンサベイターの仕事．㈶元興寺文化財研究所創立30周年・奈良大学文学部文化財学科設立20周年記念公開講演会（奈良）

魚島純一（2000．2）徳島県立博物館における非破壊調査．奈良国立文化財研究所2000年保存科学研究集会（奈良）

庄武憲子（1999．8）阿波漁村の祭礼－船ダンジリを中心に．鳴門史学会研究大会（徳島）

庄武憲子（1999.12）徳島の小正月．四国民俗学会（高知）

6．研究会・学会等の開催

●植物談話会

開催日：平成11年４月～12年３月までの毎月１回開催（土曜日の午後６時30分から）

会　場：博物館実習室

参加者：毎回約15名

●鳴門史学会研究大会

開催日：平成11年８月21日

会　場：多目的活動室

参加者：64名

●第27回四国魚類研究会

開催日：平成12年３月11～12日

会　場：ウインデック相生（相生町）

参加者：53名

Ⅲ　資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。徳島の自然や歴史・文化に関する資料は可能なかぎり網羅的に収集することはもちろん、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として四国や西日本の資料も収集していくことにしている。とくに自然の各分野については、日本の地史や生物相の形成に深い関係のある中国大陸や東南アジアをはじめ、海外まで目をむけた収集も必要になる。

資料の収集は、購入・寄贈・採集・交換など、様々な方法で行っている。最近では、県民からの資料の寄贈も増えてきている。資料の購入には美術品等取得基金を当てている。

平成11年度は５名（人文２、自然３）の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

１．購入資料

●動物

帰化淡水魚剥製*	19点

●植物

帰化植物レプリカ*	５点

●地学

頭足類化石　プレシオティテス	１点
磁鉄鉱	１点
先カンブリア紀のクラゲ化石	１点
北海道産白亜紀大型アンモナイト*	４点
モロッコ産三葉虫化石	５点
ヨーロッパ産中生代アンモナイト	５点
アメリカ産珪化木とアンモナイト	２点
合成鉱物	６点
灰クロムざくろ石ほか外国産鉱物	21点
ビカリアおよび三葉虫這い痕	２点
フランス産中生代化石	７点
シベリア産マンモスの毛	１点
アンモライト化したアンモナイト	１点
翠銅鉱および水晶と赤鉄鉱	２点
ヨーロッパ産中生代頭足類化石	６点
外国産鮮新世貝化石	５点
イカ石ほか外国産鉱物	18点

●考古

復元銅鐸	３点

●歴史

大日本六十余将（阿波）	１点
国尽倭名誉－あいだまやきたろく	１点
太平記英勇伝・八菅與六正勝	１点
第一次長州征伐御固図	１点
灯火管制用電球笠	８点
灯火管制用電球	２点
和字絵入往生要集	３点
江戸職人歌合	２点

●民俗

宮古上布	２点
八重山上布・八重山ミンサー	４点
与那国花織着尺ほか	７点
芭蕉布着尺	２点

●美術工芸

渡辺広輝筆　五節句図	１点
森魯堂筆　山水図	１点
箏　銘九江　飯塚桃葉蒔絵*	１点

（*11年度資料収集委員会における審査資料）

２．寄贈資料

●動物（脊椎動物）

愛媛県肱川産魚類標本　多数		
		西日本科学技術研究所・建設省
愛媛県産ナガレホトケドジョウ２点	高橋	弘明氏
韓国産オヤニラミ・コウライオヤニラミ		
１点	清水	孝昭氏
テングダイ　１点	横川	浩治氏
コアホウドリ他　２点	吉田	和人氏
セグロアジサシ　１点	吉田	和人氏
タイリクバラタナゴ　２点	蔭山	裕子氏
ニホンザル　１点	坂元	孝夫氏
ヤイロチョウ　１点	高石	康夫氏
イシダイ顎他　２点	林	邦光氏
テンガイハタ　１点	数藤	誠吾氏
ムササビ　１点	東谷	義夫氏
高知県産魚類標本　多数	高橋	弘明氏

ナガレホトケドジョウ他　多数　高橋　弘明氏
高知県桜川産魚類標本　多数　橋本　健一氏
ハイタカ　1点　松尾美千代氏
キツネ　1点　堺　俊彰氏
トビ他　多数　日本野鳥の会徳島支部
千葉県産ホトケドジョウ他　多数　洲澤　譲氏
愛媛県産淡水魚類標本　多数　水野　晃秀氏
フクロウ　1点　笠井　重幸氏
九州産淡水魚類標本　多数　高橋　弘明氏
ヒミズ　1点　一宮　道夫氏
韓国産淡水魚類標本　多数　田　祥麟氏
ハヤブサ・アオサギ　2点　吉田　和人氏
伊予灘産魚類標本　多数　清水　孝昭氏
高知県上ノ加江川産魚類標本　3点　岡本　充氏

●動物（無脊椎動物）
徳島県産淡水甲殻類標本　22点　浜野　龍夫氏

●動物（昆虫）
日本産ゲンゴロウ科標本　631点　内田　清氏
徳島県産甲虫類標本　1,029点　木内　盛郷氏
シコクマルタマキノコムシ（副模式標本）
1点　吉田　正隆氏
ウスコモンマダラ　1点　後藤　昭文氏
チャマダラセセリ（徳島県産）8点　佐々木孝明氏

●植物
植物標本（ユクノキほか）　23点　片山　泰雄氏
植物標本（ヤナギ属ほか）　多数　木下　覚氏
植物標本（シモツケ属ほか）　多数　田渕　武樹氏
植物標本と種子標本　7点　森本　康滋氏
植物標本（バクチノキほか）　5点　小林　禧樹氏
植物標本（ヨモギ属）　5点　赤澤　時之氏

●地学
鳴門海峡海底産化石　21点　小野　守氏
鳴門海峡海底産化石　16点　澤　靖彦氏
千葉県産更新統貝化石　20点　吉田　浩一氏
熊本県産浚渫土中の貝化石　2点　菊池　直樹氏
高知県産鉱物・化石　4点　沖津　昇氏
勝浦町産前期白亜紀化石　3点　板東　一郎氏

●歴史
帝國鉄道庁所属線路図ほか　2点　日下　喜一氏
八卦銅鏡　1点　片山　納氏
日中戦争関係写真他　18点　市橋　俊文氏
戦災復興都市計画工事完成杭ほか　3点
徳島県観光交流課
旧日本陸軍隼戦闘機燃料タンク　1点　高原　宏氏
アメリカ軍投下ビラほか　4点　今枝　靖雄氏
井上英和大辞典ほか　2点　三好　博之氏
阿波国渭津城之図　1点　松浦　菊男氏

●民俗
初代天狗久作娘頭ほか　37点　野島　直子氏
農具　3点　尾崎　伸二氏
竿秤ほか　8点　河野　通士氏
回転馬鍬　1点　東　力男氏
除草機　1点　貝出　六一氏
農具　4点　東　利三郎氏

3．寄託資料

●考古
備前系大甕・木片　2点　仁木　精一氏

●歴史
巡礼関係資料　329点　盛　博氏
丸亀藩主陣笠ほか武具　15点　藤野　安信氏
明暦四年麻植郡川田山棟付帳ほか
4点　住友　房子氏

●民俗
唐箕ほか　4点　加茂名中央会館

●美術工芸
飯塚桃葉筆　朝暾曳馬図　1点　浜本　良治氏
森魚淵筆　春日神社神輿渡御図　1点　斉藤　真倫氏
飯塚桃葉作　波蒔絵鞍ほか　24点　藤野　安信氏
閑々子　亀に宝珠自画賛ほか　3点　斉藤　真倫氏

4．資料の貸し出し

●動物
徳島県産イソハゼ類標本　14点　池田　祐二氏
那賀川産アジ類標本　2点　平賀　洋之氏
高知県桜川産魚類標本　21点　橋本　健一氏
那賀川産カジカ標本　1点　洲澤　譲氏
高知県仁淀川産カジカ標本　1点　高橋　弘明氏
昆虫標本　4箱　徳島市立鮎喰教育集会所

●植物
ツルギカンギクレプリカと標本　2点
宮崎県総合博物館

●地学
外国産鉱物　40点　名古屋市科学館
化石および鉱物　13点　徳島市立鮎喰教育集会所
火山礫　1点　新学社
勝浦町立川産イグアノドン科恐竜の歯化石　1点
福井県立恐竜博物館

●考古
若杉山遺跡出土石臼・石杵2点　山城町石の博物館

伝長者ケ原銅鐸ほか　　7件　東京国立博物館
復元銅鐸・銅鏡　　4点　徳島市立鮎喰教育集会所
若杉山遺跡出土辰砂原石ほか　2点
徳島県埋蔵文化財センター
忌部山2号墳出土須恵器有蓋短頸壺ほか　35点
徳島市教育委員会（徳島市立考古資料館）

●歴史
全国水平社創立大会綱領・宣言（複製）ほか
2点　水平社博物館
舶来大像之譜ほか　　2点　茨城県自然博物館
徳島城棟札ほか　　6点　徳島市立徳島城博物館

●民俗
シナクチカズラほか　　21点　篠原　智美氏

●美術工芸
鈴木鳴門筆　林和靖図ほか　29点
徳島市立徳島城博物館
森崎家資料　　3点　徳島市立徳島城博物館
守住勇魚作　守住貫魚肖像　1点
京都府京都文化博物館

5．特筆すべき資料の受入と整理

●太平洋戦争および徳島大空襲関係資料

歴史分野では11年度に、旧日本陸軍隼戦闘機燃料タンク、アメリカ軍投下ビラ、戦災復興都市計画工事完成杭など、太平洋戦争や徳島大空襲に関係した貴重な資料を受け入れた。

旧日本陸軍隼戦闘機燃料タンクは、高松市の明野旧陸軍飛行隊が使用したもので、長年、寄贈者の実家の天井裏に保管されていたため、当時の原型がそのまま残されており、陸軍の検印証紙をはじめ、取り扱い事項や製作を担当した河合楽器製作所の名前などが鮮明に判読できる。太平洋戦争末期、金属などの物資の不足から、旧日本陸軍の隼・疾風の戦闘機にはジュラルミン製の燃料タンクを使用せず、ベニヤ板を加工した燃料タンクを両翼に取り付けた。そして、戦闘が始まると、燃料タンクの被弾炎上を避けるため、急遽切り離して投下した。木製の燃料タンクは消耗品的な扱いであったため、現存しているものはほとんどない。

アメリカ軍投下ビラは、敗戦の3日ほど前（8月12日ころ）に、吉野川橋の下流、現在の住吉4～6丁目付近の吉野川右岸の河川敷で発見されたものという。当時、少年だった寄贈者はアメリカ軍による投下ビラと判断し、誰にも言わず大切に本に挟み保管したとのことである。ビラは、日本の降伏を勧告したもので、日本語によって、ポツダム宣言受諾後の連合国軍の取るべき政策が小さな文字でビッシリと印刷されている。この資料は極めて珍しく、県内ではほとんど現存しないと考えられる。

戦災復興都市計画工事完成杭は、戦災都市を対象に実施された戦災復興都市計画工事の完了を示したコンクリート杭である。日本では敗戦直後から、特別都市計画法により115都市の戦災都市を対象として、大規模な復興工事が行われた。徳島市では1946年（昭和21）6月から実施された。寄贈を受けた資料は、徳島市新町橋2丁目20番地に位置していた旧博物館の敷地の南東部と南西部とに設置されていたもので、戦災復興都市計画工事完成杭は、市内では他に現存しないと言われており、貴重な資料である。

これらの資料は、徳島大空襲などをテーマにした企画展などで公開したいと考えている。

●阿部近一氏蔵書

阿部近一氏は、長年にわたり徳島県の植物相について調査研究を行ってこられた方である。その成果は徳島県植物誌としてまとめられ、各種の調査研究の基礎資料となっている。また、陸産貝の研究家としても知られており、氏が発見した新種もある。さらに、徳島県文化財審議委員もつとめられ、哺乳類調査を行うなど、徳島県の生物相研究の第一人者であった。氏は1993年に他界されたが、収集標本は数年前に博物館に寄贈され、整理が進められているところである。

標本類に引き続いて、平成11年度には蔵書類（図鑑類などの図書、学会や研究会などの雑誌、写真（ネガ・紙焼き・スライド）、手紙など）の寄贈を受けた。中には、著名な植物研究家である牧野富太郎氏との書簡も含まれている。これらの資料は氏の収集した標本や発表した論文等を補完するもので、徳島県の生物相を明らかにする上で欠かせないものである。

11年度は受け入れと薫蒸を行い、12年度に整理を行う予定である.

●分野別収蔵資料数（平成12年３月31日現在）

分　　野	点　　数	内　　訳			
		実　　物	レプリカ	模型・模写	文　　献
動　物（脊　椎）	16,539	16,473	55	5	6
（無脊椎）	26,072	26,014	0	58	0
（昆　虫）	106,984	106,598	0	2	384
植　　物	178,166	177,819	61	5	281
地　　学	5,719	5,655	62	2	0
考　　古	2,919	2,775	72	13	59
歴　　史	7,562	6,845	23	4	690
民　　俗	4,225	4,215	5	5	0
美術工芸	4,986	4,982	0	4	0
合　　計	353,172	351,376	278	98	1,420

6．館蔵資料数

平成12年３月末日現在の分野別収蔵資料数は上表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等がすんだものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

7．資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（５名以内、任期２年）と特別委員（３名以内）から構成されており、特別委員は、購入資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。なお、常任委員は平成12年１月７日で任期切れとなるため、新たに委嘱手続きを行い、５名が再任された（任期は平成14年１月７日まで）.

11年度は、平成12年２月１日に第13回委員会を開催し、「１．購入資料」にリストした自然資料３件および人文資料１件の購入を諮問した。

●博物館資料収集委員会委員

（◎委員長、○副委員長）

氏　　名	役　職（専門分野）
◎湯浅　良幸	徳島史学会会長（民俗）
○高橋　　啓	鳴門教育大学学校教育学部教授（歴史）
生野　　勇	日本美術刀剣保存協会評議員（美術工芸）
石井　恒義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田　啓祐	徳島大学総合科学部教授（地学）
＊荒川　浩和	文部省文化財保護審議会専門委員（漆工史）

＊第13回委員会の特別委員

8．文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数）

10,058冊（平成11年度分　456冊）

●購入雑誌

自然史系（30タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プランタ、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、インセクタリウム、SCIAS, American Journal of Botany, Cladistics, Entomology Abstracts, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Oikos, Paleobiology, Plant Systematics and Evolution, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Zoological Journal of Linnean Society

人文系（34タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、民族学研究、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、Folklore, Journal of American Folklore

●当館刊行物の定期発送先（平成12年３月末現在）

博物館ニュース		1,443ケ所
博物館年報		482ケ所
研究報告	国内	536ケ所
	国外	159ケ所
展示解説		234ケ所
企画展図録	自然	125ケ所
	人文	235ケ所

９．資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料および借用した資料は、原則としてすべて、収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

資料の形態や量などによって、次の３種類の燻蒸を行っている。

●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130㎝×よこ120㎝×奥行140㎝（約2.3㎥）で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成11年度は12回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は、床面積20㎡×高さ３ｍ（約60㎥）である。常圧燻蒸庫での燻蒸は、文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成11年度は、２回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として３年に１回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行うことにしている。

平成11年度は歴史民俗収蔵庫、特別収蔵庫１、特別収蔵庫２、馴化室、生物収蔵庫および考古収蔵庫を対象として、臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用した全室密閉燻蒸と、地学収蔵庫の薬剤散布による害虫駆除を実施した。

これまでは全室密閉燻蒸後のガス排出の際には大気放出の方法をとってきたが、環境への影響等を考慮して、活性炭吸着後に大気放出する方法を試みた。

Ⅳ　普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接対話できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成11年度は、年間61回の普及行事を実施した。博物館の普及行事が県民のあいだに定着してきているが、参加者は徳島市内とその近郊在住者にかたよっている。普及行事の内容の充実とともに、郡部の参加者をどう増やしていくかが課題になっている。

また、学校教育との連携をどう図っていくか、もう少し具体的な取り組みを進めなければならない時期にきている。

1．普及行事

■体験学習

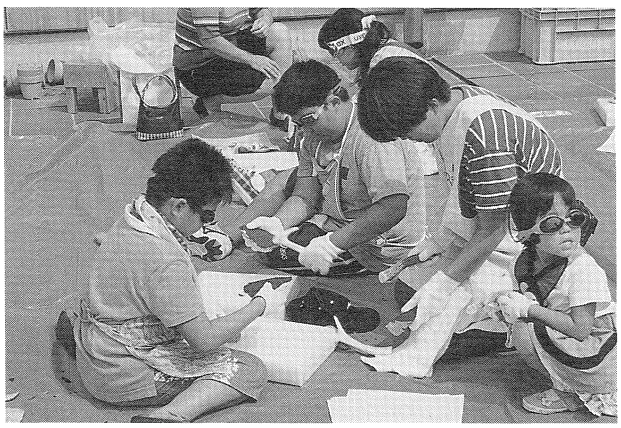
昔の人の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

7月25日(日)	火おこし	参加者46人
8月29日(日)	石やりをつくろう	28人
12月12日(日)	土器づくり①（成形）	34人
1月16日(日)	土器づくり②（焼成）	33人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、建造物、町並みなどをめぐり見学するシリーズとして実施している。

5月23日(日)	古墳見学①	44人
7月11日(日)	徳島城跡を歩こう	19人
10月24日(日)	野の仏をしらべよう	13人
11月21日(日)	辻町を歩こう	12人
12月5日(日)	一宮城を歩こう	23人
1月9日(日)	脇町を歩こう	21人
2月27日(日)	古墳見学②	57人
3月19日(日)	池田を歩こう	24人



体験学習「石やりをつくろう」

■野外自然かんさつ

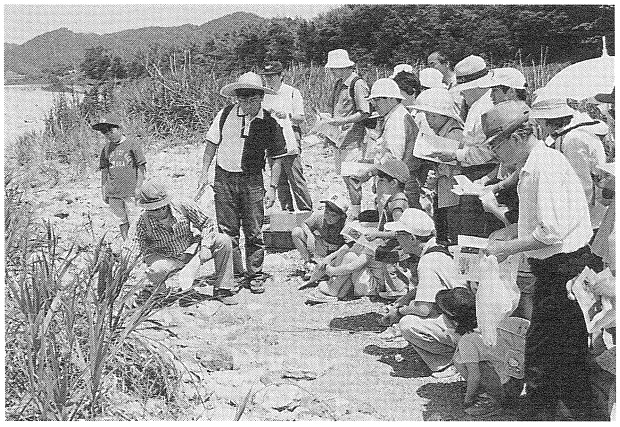
野外にでかけ、季節に応じた動植物の観察や地質見学を行っている。11年度は文化の森周辺のほかに、徳島市、鳴門市、神山町、鮎喰川川原、勝浦川河口、県南、池田町などで実施した。

4月18日(日)	徳島市中心部の地質見学	19人
5月24日(日)	春の野山を歩こう	27人
5月16日(日)	磯のいきもの①	81人
5月30日(日)	磯のいきもの②	82人
6月6日(日)	川原の石ころしらべ	47人
7月10日(土)	光に集まる昆虫をみてみよう	34人
7月31日(土)	水生昆虫のかんさつ	雨天中止
9月11日(土)	秋の鳴く虫	40人
9月12日(日)	河口の生きもの	50人
10月3日(日)	秋の植物	16人
10月10日(日)	アサギマダラにマークしよう	17人
11月7日(日)	地すべり地を訪ねる	10人
11月14日(日)	県南の植物かんさつ	38人
3月26日(日)	池田町の中央構造線	23人

■土曜講座

毎月第2土曜日の午後2時から1時間ほど、学芸員が各自の研究テーマ周辺の話題について話をする講座で、申し込み不要・定員先着50名で実施している。

4月10日(土)	ダムと魚	14人
5月8日(土)	X線で何がわかるか	23人
6月12日(土)	中世の民衆文化	20人
7月10日(土)	概説：徳島の地質	36人
8月14日(土)	旅をするチョウ・アサギマダラ	12人
9月11日(土)	大名行列のはなし	20人
10月9日(土)	谷田蒔絵のこと	8人
11月13日(土)	貝とカニのはなし	20人
12月11日(土)	南島とイモ	14人
1月8日(土)	北の植物・南の植物	29人



野外自然かんさつ「河原の石ころしらべ」

2月12日(土)	縄文文化－北からの流れ－	18人
3月11日(土)	ヒマラヤ花紀行	29人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察・講習会。内容に応じて、実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないよう、いっしょに調べる姿勢で取り組むように留意している。

6月13日(日)	貝化石標本のつくり方	16人
8月7日(土)	かんたんな貝の標本のつくり方	25人
8月8日(日)	植物標本のつくり方・名前のしらべ方	21人
8月22日(水)	きれいな葉脈のしおりづくり	76人
8月25日(水)	標本の名前をしらべる会	210人
9月5日(日)	レプリカづくり①(型どり)	9人
9月12日(日)	レプリカづくり②(色つけ)	9人
10月17日(日)	顕微鏡で鉱物かんさつ	13人
1月23日(日)	ミクロの世界	15人
1月30日(日)	落ち葉の中の生きものたち	31人
3月5日(日)	美術品の取り扱い方	16人

■ミュージアムトーク

テーマにそって数回のシリーズで実施する講座で、11年度は「中世説話を読む」を行った。

11月27日(土)	中世説話を読む①	3人
12月25日(土)	中世説話を読む②	4人
1月22日(土)	中世説話を読む③	2人

■企画展関連行事

企画展開催中に、次の記念講演会および展示解説を行った。

●企画展「よみがえる江戸時代絵巻一大名行列一」記念講演会　5月9日(日)
会　場：文化の森イベントホール
講　師：山本博文氏（東京大学史料編纂所助教授）
演　題：参勤交代と武士の意地
参加者：145人

●企画展「よみがえる江戸時代絵巻一大名行列一」展示解説　5月2日(日)　参加者39人

●企画展「伊能忠敬が描いた日本」記念講演会
9月19日(日)
会　場：文化の森イベントホール
講　師：川村博忠氏（東亜大学教授）
演　題：江戸幕府の絵図作成と伊能図
参加者：115人

●企画展「伊能忠敬が描いた日本」展示解説
第1回：9月15日(水)　参加者107人
第2回：10月3日(日)　参加者102人

●企画展「発掘された日本列島'99　新発見考古速報展」記念講演会　10月30日(土)
会　場：文化の森イベントホール
講　師：岡村道雄氏（文化庁記念物課）
演　題：貝塚から解き明かすゴミの歴史
参加者：122人

●企画展「発掘された日本列島'99　新発見考古速報展」調査報告会　10月31日(日)
会　場：文化の森イベントホール
参加者：173人

●企画展「発掘された日本列島'99　新発見考古速報展」展示解説
第1回：11月3日(水)　参加者37人
第2回：11月14日(日)　参加者24人

■クイズラリー

第2・第4土曜日(長期休業日を除く)に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施した。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が、展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながればよいと考えている。

なお、参加者全員に簡単な記念品を贈呈している。

4月10日(土)	51人	(小	47・中4・高0)
4月24日(土)	76人	(小	66・中9・高1)
5月8日(土)	87人	(小	75・中12・高0)
5月22日(土)	91人	(小	86・中5・高0)
6月12日(土)	136人	(小	125・中11・高0)

6月26日(土)　103人（小　100・中0・高3）
7月10日(土)　104人（小　99・中5・高0）
9月11日(土)　82人（小　79・中2・高1）
9月25日(土)　84人（小　70・中7・高7）
10月9日(土)　99人（小　91・中7・高1）
10月23日(土)　90人（小　81・中9・高0）
11月13日(土)　134人（小　121・中9・高4）
11月27日(土)　70人（小　68・中2・高0）
12月11日(土)　99人（小　96・中3・高0）
1月8日(土)　39人（小　38・中1・高0）
1月22日(土)　105人（小　101・中4・高0）
2月12日(土)　96人（小　93・中3・高0）
2月26日(土)　76人（小　73・中3・高0）
3月11日(土)　74人（小　71・中3・高0）
参加者合計　1,696人（小1,580・中99・高17）

■その他の普及行事

●子どもの日フェスティバル　5月5日(火)

子ども日に行う行事として、博物館と博物館友の会の共催で実施した。小学生以下の子どもたちを対象に記念品を贈呈したり、館長と友の会会長による展示解説を行った。

参加者：約500人

2．講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容（依頼者）の順に記す（内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略）。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

4月1日　小川　誠　NHKテレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（ヨモギの紹介）
4月5日　長谷川賢二　徳島県新規採用職員研修で講演「部落史の諸問題をめぐって」（徳島県自治研修センター）
4月8日　大原賢二　NHKテレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（春の昆虫）
4月15日　大原賢二　NHKテレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（ハチとハエ）
4月22日　山川浩實　NHKテレビ「情報交差点－Ourギャラリー」出演（企画展「よみがえる江戸時代絵巻－大名行列－」紹介）
5月28日　天羽利夫　石井町ふる里の歴史を学ぶ会5月学習会で講演「縄文・弥生の遺跡が語る巨大建造物」
5月31日　佐藤陽一　NHKテレビ「情報交差点―ヒューマンとくしま」出演（徳島県メダカ生息調査の紹介）
6月8日　佐藤陽一　エフエムびざん「GAYA-GAYA B-HOP」出演（メダカの話題）
6月10日　長谷川賢二　徳島県青少年就職促進協会総会で講演「色と差別」
6月10日　大原賢二　NHKテレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（ホタル）
6月13日　田辺　力　第4回新町川・助任川の底生動物調査講師（徳島市環境保全課）
7月8日　長谷川賢二　第46回四国地区同和教育研究大会大学教育分科会で講演「徳島県における部落史の見直しにむけて」
7月10日　長谷川賢二　郷土文化講座で講演「中世の宗教騒擾－法華騒動とその周辺－」（徳島県文化振興財団）
7月24日　小川　誠　徳島市八万町青少年育成会植物観察会講師
8月8日　大原賢二　相生森林美術館子供対象講座「世界のかぶと虫とくわがた虫」講師
9月6日　佐藤陽一　土木学会四国支部体験学習講座「身近な水環境の生物と私たちの生活の関わりを考える―用水路におけるメダカの生息環境調査」講師
9月21日　天羽利夫　徳島県シルバー大学校で講演「徳島の文化風土」
9月27日　山川浩實　NHKラジオ「桂七福の50市町村行くけんな－徳島市－」出演（「徳島城の抜け道」紹介）
10月7日　長谷川賢二　NHKテレビ「情報交差点－Ourギャラリー」出演（企画展「伊能忠敬が描いた日本」紹介）
10月14日　山川浩實　女と男の生き方セミナー講師（徳島城跡を案内）（阿南市福祉生活部福祉課）
10月14日　大原賢二　NHKテレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（ハチは怖い？）
11月11日　佐藤陽一　四国放送テレビ「おはよう徳島」出演（ブラックバスのキャッチ・アンド・リリース問題について）
11月27日　両角芳郎　市場町自然観察会「父尾断層の見学」講師（市場町大俣公民館）
11月30日　長谷川賢二　三好郡広域学習郷土歴史講座で講演「井川町地福寺所蔵大般若経の周辺」（三好郡広域学習実行委員会）
12月2日　小川　誠　NHKテレビ「ネイチャー徳島」

出演（ナカガワノギクの紹介）
12月９日　大原賢二　NHKテレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演（ミノムシが消えた）
12月10日　長谷川賢二　徳島県保健環境センター職場内同和研修で講演「部落史の課題をめぐって」
12月22日　長谷川賢二　徳島市講師団講師研修会で講演「部落史の見直しに向けて」（徳島市同和教育推進協議会）
12月23日　天羽利夫　シンポジウム「国府を語る」で講演「最近の発掘調査の成果から」（国府地区文化おこし委員会）
１月15日　長谷川賢二　板野広域学習講座で講演「三好氏と宗教」（板野広域学習実行委員会）
１月17・18日　大原賢二　徳島市八万南小学校２年生校外活動「冬の生きもの探し」講師
２月２日　中尾賢一　鳴門市瀬戸小学校で５・６年生対象に講演「ナウマンゾウの化石について」
２月10日　大原賢二　NHKテレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演（チョウの冬越し）
２月18日　天羽利夫　博物館指導者研究協議会庶務部門研修で講演「これからの博物館のマネージメント」（日本博物館協会）
２月25日　天羽利夫　四国放送テレビ「おはよう徳島」出演（徳島の20世紀・鳥居龍蔵について）

３．博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第１条で、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。４月１日～５月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに承諾書を発行することにしている。

平成11年度は、８月23～27日に実習生の受け入れを行った。実習生は26人（男９人、女17人）で、大学別の内訳は次のとおりである。

四国大学	11人	大阪芸術大学	１人
徳島大学	８人	京都橘女子大学	１人
徳島文理大学	２人	広島女子大学	１人
金沢大学	１人	静岡大学	１人

カリキュラムは下表のとおりで、指導の都合上、少人数のグループに分割した時間帯もある。各学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

●11年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前（9:30～12:00）		午後（13:00～16:00）		（16:00～16:30）
8/23（月）	オリエンテーション（庄武）	全員	魚類標本の整理（佐藤）	A班	ノート記入　全員
	館内見学（山川）	全員	歴史資料の整理（山川）	B	
	博物館の運営について（天羽）	全員	化石標本の整理（両角）	C	
			美術品の取り扱い方（大橋）	D	
8/24（火）	博物館資料の保存（魚島）	全員	博物館の普及活動について－1（山口・結城）	全員	ノート記入　全員
8/25（水）	博物館の普及活動について－2（山口・結城）	A・B班	美術品の取り扱い方（大橋）	A	ノート記入　全員
			歴史資料の整理（長谷川）	B	
	標本の名前を調べる会（中尾）	C	普及行事の準備（高島）	C	
	民俗資料の整理（庄武）	D	標本の名前を調べる会（中尾）	D	
8/26（木）	貝化石のｸﾘｰﾆﾝｸﾞと登録（中尾）	A	昆虫標本の整理（大原）	A	ノート記入　全員
	火おこし実習（魚島）	B・C	歴史資料の整理（山川）	B・C	
	資料の梱包（高島）	D	民俗資料の整理（庄武）	D	
8/27（金）	博物館の情報システム	全員	普及行事と展示の立案（田辺）	A	ノート記入　全員
			化石標本の整理（両角）	B	
			歴史資料の整理（山川）	C	
			植物標本の整理（茨木）	D	

4．博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、催し物案内ポスター、企画展ポスター等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動をＰＲしている。月間行事案内については、県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。さらに、電子メールを利用した催し物案内サービスも行った。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	251ケ所
中学校	96
高等学校・その他学校	76
学会・同好会等	13
県および県教育委員会各課・機関	55
市町村教育委員会	50
公民館・隣保館	226
市町村および大学図書館	30
博物館施設	45
宿泊施設	32
報道関係機関等	38

●電子メールサービス

登録者　237人（平成12年３月31日現在）

●報道機関への資料提供

４月７日　企画展「よみがえる江戸時代絵巻－大名行列－」の開催について
５月19日　部門展示（人文）「復元された青銅器たち」「描かれた職人たち－絵に見る中世－」の開催について
６月15日　徳島ミュージアムスタンプラリー期間限定完走賞の表彰について
７月13日　平成11年度館蔵品展「自然コレクション」の開催について
７月30日　「凧のかたち」の展示について
８月18日　企画展「伊能忠敬が描いた日本」の開催について
10月７日　企画展「発掘された日本列島'99新発見考古速報展」の開催について
10月15日　特別展示「東京国立博物館所蔵考古資料の展示」の開催について
12月21日　徳島藩主関係書状などの初公開について
12月22日　故野島青茲画伯遺品、初代天狗久作人形頭の資料受け入れについて
３月29日　部門展示「くらしの中の藍染－収蔵コレクション－」について
３月29日　企画展「藍のよそおい」の開催について

以上のほか、毎月の催し物案内や美術品等取得基金によって８月末・11月末・３月末に購入した資料の内容についても資料提供を行った。

5．学校教育との連携

学習指導要領には、学校教育の中で博物館の活用を図ることが明記されている。しかし、博物館を利用する学校は、横ばい傾向にある。

そこで、博物館を楽しく効果的に利用してもらうために、遠足等で博物館を訪れる小学校に、展示解説を実施したり、学校の希望に応じて「博物館見学ノート」を配布したりしている。また、児童・生徒の普及行事への参加を促すため、年度当初に「催し物あんない」リーフレットを、小・中・高校生および教職員の全員に配布した。

また、学校での授業や文化祭での展示などに活用してもらうため、学校への博物館資料の貸し出しを行った。ＰＲがまだ十分でないためか、あるいは学校の希望する資料がないためか、貸出数は少なかったが、利用した学校からは好評を得ている。今後は学校の要望等を参考に、学校への貸出用資料の充実に努めたい。

その他、徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。

●平成11年度初任者研修講座（徳島県教育委員会）

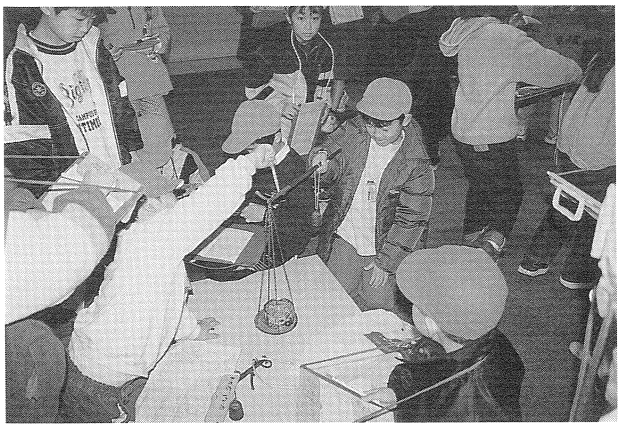
８月21日（金）　参加者14人
講義：「博物館の概要及び学校教育との連携」（天羽利夫）
「博物館の普及行事について」（山口英二）
研修：博物館の裏側見学（山口英二・結城孝典・佐藤陽一・魚島純一）

●学校の授業での博物館利用

①１月28日（金）徳島市八万南小学校３年生　74人
「総合的な学習－課題解決学習－」に対して学芸員９人が展示説明と助言
②１月29日（土）徳島市昭和小学校３年生　100人
講義：「むかしの道具しらべ」（庄武憲子）
③２月２日（水）徳島市福島小学校３年生　120人
講義：「むかしの道具しらべ」（庄武憲子）

●学校の授業への講師派遣

①１月17日（月）・18日（火）徳島市八万南小学校２年生校外活動「冬の生きもの探し」講師（大原賢二）
②２月２日（水）鳴門市瀬戸小学校５・６年生対象に講演「ナウマンゾウの化石について」（中尾賢一）



学校の授業での博物館利用「むかしの道具しらべ」

●学校への資料の貸出

①池田第一中学校（５月31日～６月３日）
　貸出資料：復元青銅器銅鐸（舌付き）１点
　利用目的：授業での使用

②鷲敷中学校（６月21日～７月11日）
　貸出資料：火おこし道具　５組
　利用目的：授業での使用

③菅生小学校（７月27日～８月26日）
　貸出資料：火おこし道具　３組
　利用目的：授業での使用

④相生中学校（５月25日～５月28日）
　貸出資料：三番叟回しビデオテープ
　利用目的：授業での使用

６．博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。博物館館内に事務局を置いている。

●会員（平成11年度末）
　個人会員（年会費2,000円）　98人
　家族会員（年会費3,000円）　121組・448人

●役員（平成11年度）
　会　長：寺戸恒夫
　副会長：天羽利夫（博物館長）・森本康滋・真貝宣光
　幹　事：和田賢次・石原　侑・徳山　豊・多田精介・本田　昇・森本嘉訓・鎌田幸子・関眞由子・南部洋子
　監　査：柏野寿一・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布
　博物館発行の企画展図録および解説書の増刷・頒布を行った。また、徳島の自然と歴史ガイドNo. 1「徳島城」の増刷・頒布を行った。

②広報活動
　11年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.10～12を発行し、会員に送付した。

③企画展説明会
　企画展「よみがえる江戸時代絵巻－大名行列－」、「伊能忠敬が描いた日本」および「発掘された日本列島'99　新発見考古速報展」の開催にともない、それぞれの期間中に会員を対象として説明会を行った。

④野外活動等
　会員を対象とした行事を９回実施した。

○こどもの日フェスティバル（博物館と共催）
　来館者に友の会の紹介と入会勧誘を行った。また、クイズで楽しんでもらうとともに、小学生以下の子どもたちには記念品（昆虫下敷き、紙ふうせん）を進呈した。
　日　時：５月５日(水)　９：30～15：00
　場　所：博物館常設展示室
　参加者：約500人

○総会
　日　時：５月９日(日)
　場　所：博物館講座室
　参加者：16人

○初夏の研修会（貸切バス利用）
　兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）、淡路島の野島断層保存館を見学した。
　日　時：６月13日(日)　９：00～18：00
　参加者：46人

○地引き網
　地元漁協が行う観光地引き網に参加した。採集

友の会「初夏の研修会」（兵庫県立人と自然の博物館前での記念撮影）

した魚については、学芸員が説明をした。
日　時：７月18日（日）10：00～13：00
場　所：北の脇海水浴場（阿南市中林町）
参加者：60人

○光をつかった昆虫観察
水銀灯やブラックライトを数本取り付け、夜間に光に集まる昆虫を採集して観察した。
日　時：７月31日（土）19：00～21：00
場　所：大川原高原（名東郡佐那河内村）
参加者：30人

○園瀬川釣り大会
魚釣り、タモ網で採集、目視観察を行った。
日　時：９月26日（日）13：00～16：00
参加者：９人

○秋の研修会（貸切バス利用）
高松市の玉藻公園横にある香川県立歴史博物館と峰山公園にある石清尾山古墳群を見学した。
日　時：11月28日（日）８：30～17：00
参加者：42人

○友の会バザー＆竹でっぽうづくり
バザーは３回目で、出品物が少なくなってきたことから、竹でっぽうづくり、わらを使っての輪注連（わじめ）づくりを抱き合わせて実施した。
日　時：12月19日（日）13：00～15：00
場　所：博物館実習室
参加者：56人

○草だんごづくり＆七草がゆ
春の七草とヨモギを集めてお粥とだんごをつくり、試食した。
日　時：２月６日（日）10：00～14：00
場　所：博物館実習室
参加者：25名

７．普及教育関係出版物

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A４判・８ページ（全ページカラー）で6,000部を印刷している。

平成11年度には次の４号を発行した。

●No.35（1999年６月20日発行）
Culture Club　おかずの博物学
速報　前山１号墳の発掘調査
企画展　館蔵品展　自然コレクション　伊能忠敬が描いた日本
野外博物館　さかい目っておもしろい－勝浦川河口の植物観察
レファレンスQ&A　古代人が水銀を飲んでいたというのはほんとうですか

●No.36（1999年９月16日発行）
Culture Club　守住貫魚と模型制作
企画展　伊能忠敬が描いた日本
新発見考古速報展　発掘された日本列島’99
館蔵品紹介　宍喰の蓮根
レファレンスQ&A　昆虫の標本の作り方を教えてください

●No.37（1999年12月１日発行）
Culture Club　おばけキャベツ!?－レウム・ノビレは温室植物－
速報　故阿部近一氏の文献類が寄贈されました
情報ボックス　化石標本の作り方
野外博物館　うだつの町なみを歩こう
レファレンスQ&A　日本で米づくりが始まったのはいつからですか

●No.38（2000年３月25日発行）
Culture Club　災害から文化財を守る
速報　ブタクサハムシ、徳島県にも侵入！
企画展　藍のよそおい
館蔵品紹介　テンガイハター不思議な魚、紀伊水道に出現
レファレンスQ&A　この実のなまえはなんですか？

■その他

●博物館催し物案内
１年間の普及行事予定をB４判４つ折のリーフレットとして印刷している。14万部印刷し、県内の小・中・高校生および教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

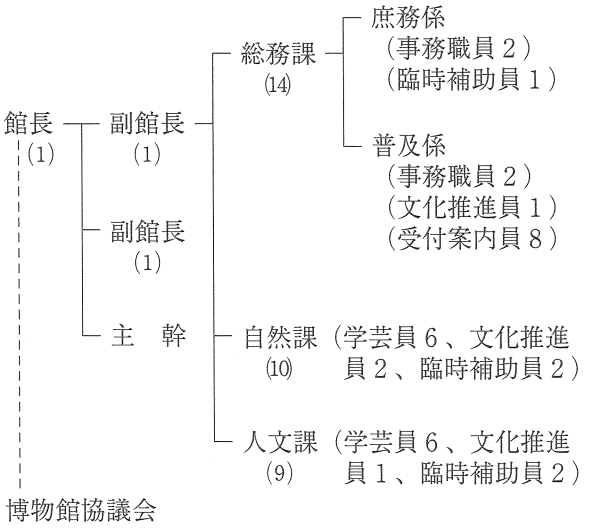
●月間行事案内
各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したB４のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き
学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した小冊子。年度初めに県内各学校に送付している。

V　管　理　運　営

1．組織・職員

(1) 組織図（平成12年５月１日現在）



(2) 職員名簿（平成12年５月１日現在）

館　　長　天羽　利夫
副　館　長　日下　武久
副　館　長　両角　芳郎
主　　幹（総務課長兼務）米益　麻夫

〈総務課〉

総務課長（庶務係長兼務）米益　麻夫
主　　査　山口都志江
普及係長　山口　英二
主　　事　坂本　和裕
文化推進員　島　さなえ
臨時補助員　板東　利枝
受付案内員　辻内　恵子
〃　　地福　京子
〃　　佐々木千恵
〃　　森脇　美和
〃　　佐々木道子
〃　　柳沢希世子
〃　　吉田　友子
〃　　山崎　　光

〈自然課〉

自然課長　大原　賢二（動物）
主任学芸員　佐藤　陽一（動物）
〃　　小川　　誠（植物）
〃　　田辺　　力（動物）
〃　　中尾　賢一（地学）
学芸員　茨木　　靖（植物）
文化推進員　小林　千恵
〃　　濱田　康代
臨時補助員　騎馬　貴子
〃　　岩佐　春香

〈人文課〉

人文課長　山川　浩實（歴史）
専門学芸員　高島　芳弘（考古）
主任学芸員　大橋　俊雄（美術工芸）
〃　　長谷川賢二（歴史）
〃　　魚島　純一（考古・保存科学）
学芸員　庄武　憲子（民俗）
文化推進員　原　多賀子
臨時補助員　竹内美千代
〃　　佐野真樹子

(3) 人事異動（平成12年４月１日付、カッコ内は前職）

転出：結城　孝典・文化財課社会教育主事へ
転入：坂本　和裕・主事（阿南市教育研究所適応指導教室室長）
昇格：高島　芳弘・専門学芸員（主任学芸員）
〃：魚島　純一・主任学芸員（学芸員）
〃：中尾　賢一・主任学芸員（学芸員）

(4) 平成11年度非常勤・臨時職員

●文化推進員（非常勤特別職）

須賀　尚子（平成９．４．１～12．３．31）
小林　千恵（平成10．５．１～　　）
原　多賀子（平成11．４．１～　　）
濱田　康代（平成11．５．１～　　）

●臨時補助員

江村　美穂（平成11．４．１～12．３．31）
椎野　美香（平成11．４．１～12．３．31）
松村　由女（平成11．４．１～12．３．31）

●平成11年度博物館費（２月現計予算額）

（単位：千円）

科　目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報　酬	26,650	26,650				
賃　金	6,902	6,902				
報償費	1,623		647	416	320	240
旅　費	9,232	1,039	2,975	4,083	1,006	129
需用費	35,258	4,007	19,620	4,956	4,682	1,993
役務費	13,905	2,012	7,994	556	2,505	838
委託料	9,676		3,233		6,443	
借　損	613	133	280			200
備品費	48,596	3,188	3,854	1,200	＊40,354	
負担金	1,901	81	1,755	65		
計	154,356	44,012	40,358	11,276	55,310	3,400

註）＊のうちには、資料購入費34,904千円を含む。

●受付案内員（非常勤特別職）

浅川真理子（平成９．４．１～12．３．31）
湾洞　　恵（平成９．７．26～12．３．31）（旧姓川中）
辻内　恵子（平成10．４．１～　　）
山田　紀子（平成10．４．７～11．４．30）（旧姓多智花）
地福　京子（平成10．４．12～　　）
佐々木千恵（平成10．10．１～　　）
冨士谷美香（平成10．11．１～12．１．31）
森脇　美和（平成11．４．１～　　）
矢野　智子（平成11．５．１～12．３．31）
佐々木道子（平成12．２．１～　　）

２．予算

２月現計予算額（２月補正後の予算額）を上表に示す。

３．博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

11年度は協議会を１回開催した。

●11年度博物館協議会

日時：平成11年８月４日（水）　13：30～16：00
会場：博物館講座室
議事　①平成10年度決算及び事業報告について
②平成11年度予算及び事業計画について
③「県民に親しまれる博物館」のあり方について
④その他

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成12年３月31日現在）

区　分	氏　名	役　職　等
学校教育	岩佐　重明	県小学校教育研究会理科部会長 沖洲小学校長
	高島　稔之	県中学校教育研究会社会科部会長 鳴門教育大学附属中学校副校長
	佐々木清克	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 徳島中央高等学校教頭
社会教育	浜口　政明	徳島市立徳島城博物副館長
	丸岡　　武	日和佐うみがめ博物館館長
	大石　雅章（副会長）	鳴門教育大学助教授
学識経験	中村　昌宏（会　長）	徳島文理大学教授
	佐野　英子	徳島新聞社事業局事業部副部長
	友滝　洋子	徳島県女性海外派遣交流協会会長
	田中　育代	ボランティアグループ「うずしおネット」運営委員会委員

4．四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在92館（園）が加盟している。四国地区の会長（支部長）を担当する館が２年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっており、平成10～11年度の２年間は高知県立美術館が幹事をつとめた。

平成11年度の役員会及び総会は次のとおり高知市で開催された。

日時：平成11年６月24日（木）～25日（金）
会場：サンライズホテル
議事　①10年度事業報告及び決算報告について
②新規加盟施設の紹介及び会費決定について
③平成11年度事業計画案及び予算案について
④その他

5．徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、徳島県博物館協議会が平成９年２月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、９年度新たに11館、11年度に２館が加盟し、全部で44館（平成12年３月末現在）になっている。なお、当館に事務局が置かれている。

●役員（平成12年３月末現在）

会　長	徳島県立博物館長	天羽　利夫
副会長	とくしま動物園長	本田　　武
副会長	大塚国際美術館理事	田中　秋筰
理　事	相生森林美術館長	仁木　　正
理　事	徳島市立徳島城博物館副館長	浜口　政明
理　事	徳島県立近代美術館長	石田　圭助
理　事	石の博物館長	岩崎　正夫
理　事	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館長	笹田　博之
監　事	海南町立博物館長	岡田　一郎
監　事	鳴門市ドイツ館長	宮本　幸次

●平成11年度事業

①加盟館園の組織・職員と展示概要、主な収蔵資料リストの作成
アンケート調査を行い、回収した資料を取りまとめて加盟館園に配布した。

②役員会の開催
・日時：６月２日（水）10：30～12：00
場所：徳島県立博物館応接室
議事：総会について
・日時：12月７日（火）13：30～15：30
場所：徳島県立博物館応接室
議事：「とくしまミュージアムスタンプラリー」の経過・県外旅行業者へのPR活動の報告について

③総会の開催
日時：６月２日（水）14：00～16：00
場所：徳島県立博物館講座室
議事：10年度事業報告ならびに決算報告について
監査報告について
11年度役員について
11年度事業計画ならびに予算案について

④研修会の開催
日時：２月９日（水）・10日（木）
場所：海南町立博物館
内容：講演「海南町立博物館の展示資料について」
海南町立博物館見学
研修視察（宍喰町海洋自然博物館・海部町大うなぎ水族館・貝の資料館「モラスコむぎ」・日和佐うみがめ博物館）

⑤県外旅行業者へのPR活動の実施
平成９年４月に明石海峡大橋、平成11年５月には「瀬戸内しまなみ海道」、さらに平成12年３月には四国の県庁所在地が高速道路で結ばれた。こうした背景から四国内外の観光客が来県する機会も増加した。そこで昨年度に引き続き、協議会の代表９館、事務局職員及び徳島県大阪事務所の職員等延べ20名が、４班で岡山、姫路、神戸、大阪、名古屋方面の旅行業者（40事業所）を訪問した。
「徳島博物館マップ」や各館のリーフレット等を持参し、PR活動を実施するとともに、観光ツアー等で博物館施設を利用してもらうために必要な条件、提案等を聞き、今後の対応を検討した。

⑥とくしまミュージアムスタンプラリーの実施
９年度に作成した「徳島博物館マップ」の有効利用とともに、入館者の増加をはかるなど、博物館活動の振興に努めるため、11年度から３年間の期限で「とくしまミュージアムスタンプラリー」を実施している。この事業については、マスコミや県内各市町村に広報を依頼するなどPRに努めた。
１年目の11年度は21組39名の完走者（スタンプラリーに参加する42館すべての見学者）が出た。

⑦徳島県博物館協議会加盟館実務者による共同事業検討会の開催
加盟館相互のネットワークを深めながら、博物館

活動の高揚をはかるため、今年度から取り組むことになった。
日時：１月18日(火)　14：00～16：00
場所：徳島県立博物館講座室
内容：共同事業全般について、参加各館で意見交換を行った。次年度も引き続き、実施可能な共同事業について、検討していくこととなった。

6．各種委員・非常勤講師等の受諾

平成11年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

天羽利夫
　徳島市立考古資料館協議会委員
　　(平成11．7．1～13．6．30)
日下武久
　徳島市立徳島城博物館協議会委員
　　(平成10．5．1～12．5．31)
両角芳郎
　徳島大学総合科学部非常勤講師
　　(平成11．4．1～12．3．31)
佐藤陽一
　徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会委員・淡水魚類分科会座長
　　(平成10年４月～12年度)
小川　誠
　徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会維管束植物分科会委員
　　(平成８年４月～12年度)
田辺　力
　徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会委員・その他の無脊椎動物分科会座長
　　(平成８年４月～12年度)
高島芳弘
　徳島市立考古資料館資料展示検討委員会委員
　　(平成12．2．1～14．3．31)
大橋俊雄
　四国大学非常勤講師
　　(平成11．4．1～11.10.10)
長谷川賢二
　松茂町歴史民俗資料館協議会委員
　　(平成11．4．1～13．3．31)
　徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員
　　(平成11．4．1～12．3．31)
　徳島県高校・社会教育同和教育資料執筆委員
　　(平成11．6．21～12．3．31)
魚島純一
　国立歴史民俗博物館共同研究員
　　(平成11．4．1～12．3．31)
庄武憲子
　神山町史編集委員会執筆委員
　　(平成10．7．1～15．3．31)
結城孝典
　徳島県高校・社会教育同和教育資料執筆委員
　　(平成11．6．21～12．3．31)

7．コンピュータシステム

平成11年度はCOMET（徳島県文化・学習情報システム）のコンピュータシステム更改が行われ、それに伴う博物館システムの更改作業を行った。

(1) システムの構成

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の２つに大別される。

業務用システムでは、研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネットでつなぎ、２台のファイルサーバを中心としたMacintoshによるLANを構築している。そして、各室の端末経由でデータベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなくノート型パソコンを活用している。業務用サーバのデータは、21世紀館に常駐するSEによって毎日バックアップがとられている。

情報提供用システムでは、館内ではLANにより、館外へはパソコン通信やインターネットによる情報提供を行っている。平成12年度から開始される新システムでは、館外者向けにはパソコン通信がなくなり、インターネットによる情報提供のみとなる。それに備えて、11年７月からインターネットのWEBサーバを博物館で先行的に運用し、データベースの公開などの情報提供を試みた。

(2) システムの活用

●資料管理

博物館では収蔵資料をデータベースに登録している。資料データベース作成は、各分野ごとに担当学芸員が様々な目的に応じた柔軟なデータの加工ができるよう、市販のソフトであるファイルメーカProを用いて行っている。資料に付随する画像のデータもファイルメーカで管理している。

資料データベース活用して、日常的に次のような作業を行っている。

・資料ラベルや資料目録の作成
・資料受け入れ貸し出し管理
・各種調査や問い合わせのデータ作成
・情報提供用データの作成

●各種データベースの構築

資料管理以外にも次のような各種のデータベースを構築し、共有している。

・図書データベース
・画像データベース
・文献データベース
・発送先住所データベース

●普及および公報活動への活用

博物館ニュースや催し物案内などの広報用印刷物は、パソコンを使って編集し、データを印刷業者に渡したり、レーザプリンタで出力したものを原稿として用いている。平成11年度も10年度に引き続いて、催し物データベースを構築し、それを利用して催し物案内文の作成、行事記録の作成を行うようにした。さらにデータベースと電子メールソフトを連携して、電子メールでの催し物案内サービスも行い、3月現在で約230名に毎月の催し物案内を配信している。

その他、普及行事の資料をパソコンで作成したり、講座でデジタルプロジェクタを利用し、パソコン画面の投影を行ったりしている。

●COMETを通じての情報提供

文化の森では、COMETを通じて来館者や各家庭（パソコン通信経由）にさまざまな情報提供を行っている。情報システムを管理しているのは21世紀館であるが、提供する情報は各館で作成している。

博物館では次のような情報提供を行っている。

・資料データベース
・図書データベース
・博物館の案内
・博物館からのお知らせ
・ビジュアル博物館（クイズなど）

これらのうち資料や図書データベースについては、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

●インターネットによる情報提供

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。そのひとつとして、平成10年度から上述の電子メールサービスを行っている。さらに、現状のホームページ（http://www.comet.go.jp/cgi-bin/museum）による情報提供ではデータの追加や変更が簡単にできない仕組みになっているため、その改良に取り組んだ。その結果、MacintoshのWWWサーバを用意して、柔軟なホームページの更新が可能となるシステムを構築した。11年7月からは、次期COMETシステムの実験という性格も兼ねて、新ホームページの運用を始めた。

11年度末でのアクセス件数累計は5,350件である。

●インターネットの活用

電子メールやホームページを職員が利用できるようになり、各種問い合わせや連絡、情報の収集に活用している。メーリングリストを利用し、博物館や研究者間の情報交換もさかんに行われている。

●展示活動への活用

企画展の展示パネルの多くやラベルは、パソコンで作成し、レーザプリンタやカラープリンタで印刷したものを使うようになった。自前で作成するためイメージにあったレイアウトが可能となり、また、経費の節減にもつながっている。

●博物館業務管理への活用

日常の博物館業務管理にもシステムを活用しており、次のような定型作業や集計作業の効率化を図っている。

・展示観覧者数などの各種統計管理
・団体見学や普及行事申込受付管理
・各種事務書式の共有
・各種定形文書作成
・予算・物品発注管理

(3) 情報システムの更新作業

平成11年度には、12年度から運用開始する第3期目COMETの情報システムの更改作業が行われた。博物館システムの更改については次のような方針で望んだ。

・博物館の業務システムは基本的に現状をベースに改良を加える。
・情報提供はインターネットおよびイントラネットを通じて行う。
・WWWサーバは博物館で運用ができるようにし、市販のデータベースソフトを使ったデータベースサービスの構築など柔軟な運用ができるようにする。

その結果、次のような構成で3期システムを運用することになった。

・職員に1人1台の端末を設置する。
・業務用サーバは2台（ファイルサーバ1、データベー

スサーバ１）とする。
・情報提供用としては、WindowsNT サーバによる資料データベースと、Macintosh による WWW サーバとする。さらに、ファイルメーカー Pro 5 Unlimited 版を使って、データベースを公開できるようにした。

8．視察等博物館関係来訪者

4月15日　文部省教育助成局地方課長　徳永　保氏ほか２名
4月24日　国立民族学博物館助教授　園田直子氏ほか３名
5月８日　香川県歴史博物館学芸員　松岡明子氏
5月20日　熊本県企画部長　上野善晴氏ほか２名
5月22日　高知県立歴史民俗資料館学芸員　野本　亮氏
6月22日　日米財団派遣グローバルパートナーシップ県教育委員会訪問団一行13名
6月23日　四国大学「図書館特論」受講生14名
9月23日　安芸市立歴史民俗資料館学芸員　小林和香氏
9月28日　愛媛大学教授　松原弘宣氏ほかゼミ生一行
10月６日　和歌山県立博物館学芸員　前田正明氏
10月７日　瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員　山本秀夫氏、安城市歴史博物館学芸員　岡安雅彦氏
10月８日　大阪府立大学専任講師　福田珠己氏
10月14日　日本博物館協会近畿支部研修会一行35名
10月25日　福岡市市民局同和対策部市民啓発課長　杉谷俊一氏ほか２名
10月26日　貝塚市人権啓発関係団体代表者一行40名
11月11日　兵庫県同和問題推進企業連絡会組織委員会一行８名
11月11日　岡山県博物館協議会研修一行15名
11月12日　京都府京北町地域コミュニティー活動推進モデル事業委員会一行15名
11月17日　六星会（尼崎市６行政区代表）一行18名
11月21日　徳島大学総合科学部「日本文化論」受講生30名
11月26日　中国・四国地区文書館等職員連絡会議出席者一行11名
12月４日　武蔵野美術大学教授　神野善治氏
12月５日　中国広東省政府徳島県訪問団一行７名
12月17日　名古屋市科学館総務課経営係長　柴田宏郎ほか１名
1月６日　ライオンズクラブ国際協力青年交換留学生　揚婉晶氏
1月20日　九州大学教授　服部英雄氏
1月23日　鹿児島県立博物館学芸員　廣森敏昭氏ほか１名
2月２日　岩手県議会運営委員会一行17名
2月３日　河南町人権をまもる会役員・事務局一行８名
2月25日　北海道立理科教育センター地学研究室長　松田義章氏
3月５日　大阪市立大学中世史研究会一行13名
3月29日　名古屋大学名誉教授　三鬼清一郎氏、四日市大学助教授　播磨良紀氏
3月30日　広島大学助教授　小池聖一氏

Ⅵ 観覧者統計

平成11年度常設展及び企画展観覧者数、年度別累計は別表のとおり。

●平成11年度常設展観覧者数

（単位：人）

月	開館日数	有料観覧者										無料観覧者													観覧者総数
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)			有料観覧者計	学校教育										第2・4土無料入館	その他	無料観覧者計	
												幼・保育		小学校		中学校		高校		計					
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生		園	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数				
4	26	710	42	319	18	0	0	185	0	0	1,274	0	0	3	325	1	115	1	91	5	531	114	669	1,314	2,588
5	26	732	33	277	0	0	0	61	0	2	1,105	3	119	17	1,266	4	660	1	43	25	2,088	209	3,309	5,606	6,711
6	26	696	26	212	13	0	14	71	0	0	1,032	3	73	3	284	2	184	0	0	8	541	236	311	1,088	2,120
7	27	791	42	443	36	0	0	60	0	3	1,375	2	16	2	135	0	0	1	14	5	165	106	798	1,069	2,444
8	26	1,573	120	1,023	20	0	22	102	1	8	2,869	1	33	1	12	0	0	0	0	2	45	0	741	786	3,655
9	26	603	110	245	14	1	10	51	0	0	1,034	1	6	1	15	0	0	0	0	2	21	217	1,378	1,616	2,650
10	27	601	44	193	79	1	0	204	0	3	1,125	2	36	20	1,269	3	335	2	298	27	1,938	260	1,546	3,744	4,869
11	25	626	33	116	132	0	0	146	0	1	1,054	3	223	9	474	2	178	1	46	15	921	255	2,174	3,350	4,404
12	23	368	26	106	3	146	29	109	0	0	787	0	0	1	131	0	0	0	0	1	131	110	409	650	1,437
1	23	615	40	203	0	0	0	56	0	3	917	3	207	2	161	0	0	0	0	5	368	143	686	1,197	2,114
2	25	719	63	154	52	0	0	82	0	0	1,070	4	67	2	131	0	0	1	91	7	289	169	818	1,276	2,346
3	27	744	63	304	23	0	14	79	0	1	1,228	3	133	1	120	0	0	0	0	4	253	62	1007	1,322	2,550
計	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888

●博物館常設展観覧者数累計（平成２～11年度）

（単位：人）

年度	開館日数	有料観覧者										無料観覧者													観覧者総数
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)			有料観覧者計	学校教育										第2・4土無料入館	その他	無料観覧者計	
												幼・保育		小学校		中学校		高校		計					
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生		園	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数				
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888
計	2,842	250,818	20,818	92,520	24,583	1,540	4,686	40,386	156	185	435,692	165	9,334	953	92,967	196	29,039	92	12,594	1,406	143,934	11,516	79,005	234,455	670,147

●平成11年度企画展観覧者数

（単位：人）

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者										無料観覧者	観覧者総数
			個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			有料観覧者計		
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
大名行列	11.4.20 ～11.5.23	30	1,752	74	298	0	7	725	468	0	1	3,325	426	3,751
伊能忠敬が描いた日本	11.9.10 ～11.10.11	28	2,189	267	461	3	22	133	497	0	5	3,577	659	4,236
発掘された日本列島'99	11.10.24 ～11.11.21	25	1,861	128	297	111	49	46	570	0	1	3,063	1,688	4,751
計		83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738

●企画展観覧者数累計（平成３～11年度）

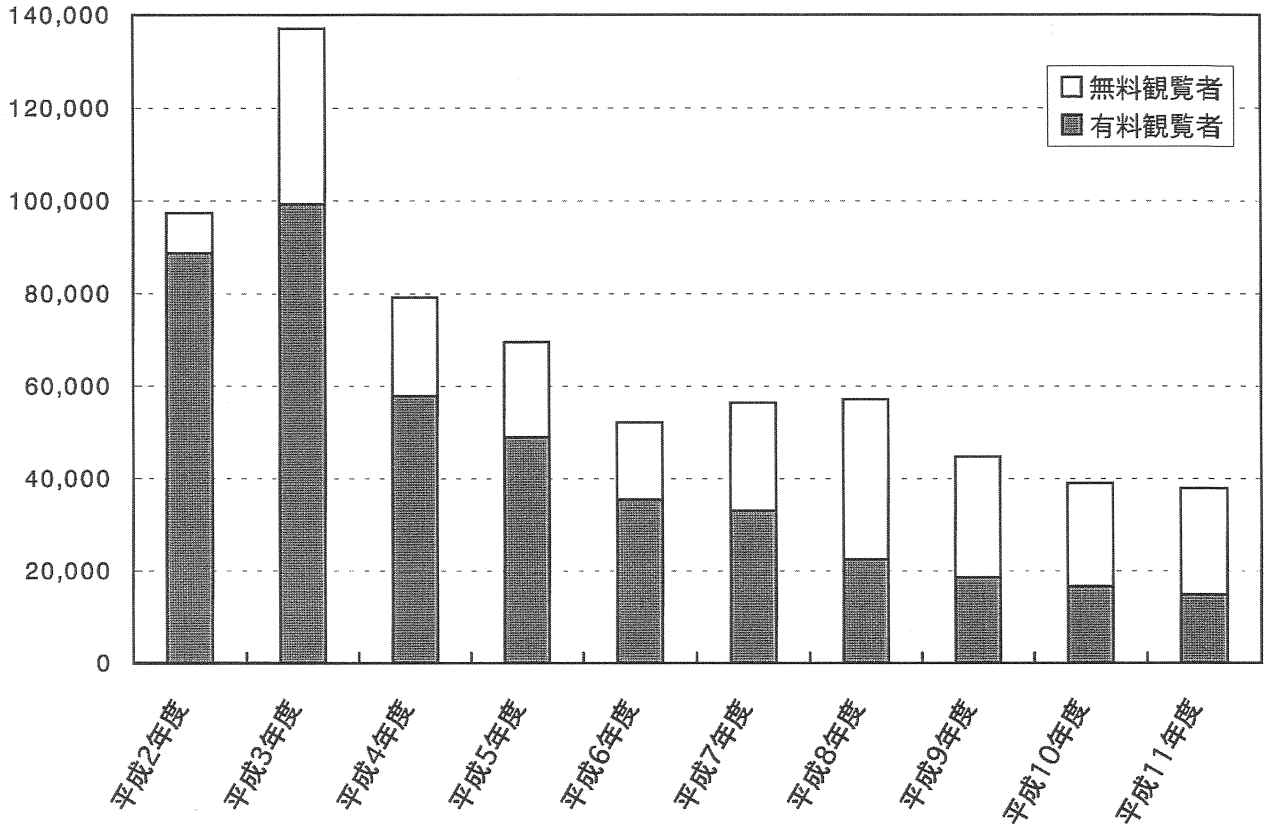
（単位：人）

年度	開館日数	有料観覧者										無料観覧者	観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			有料観覧者計		
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
平成３年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成４年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成５年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成６年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成７年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成８年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成９年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	731	0	15	11,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
累計	915	78,117	6,548	29,589	1,702	253	6,646	11,775	59	40	134,729	41,158	175,887

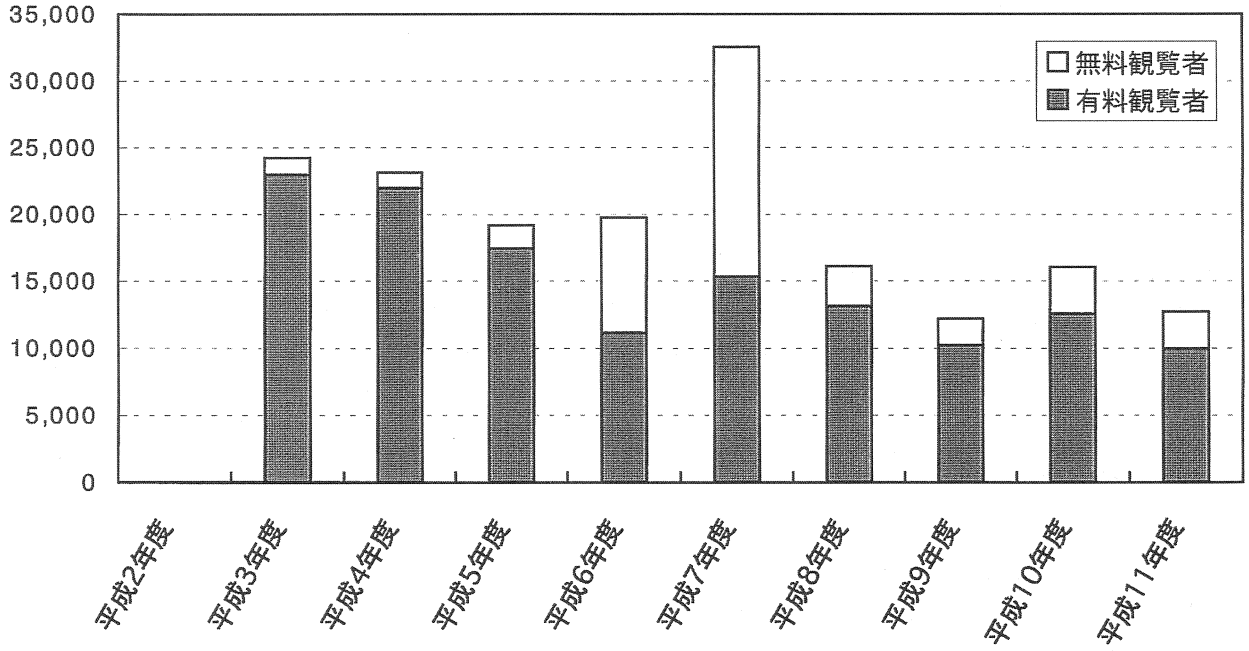
●特別陳列観覧者数累計（平成４～11年度）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第１回館蔵品展	平５．２．16 ～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平６．２．１ ～２．27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平７．１．13 ～２．５	21	3,165
第２回収蔵品展	平８．２．16 ～３．17	27	5,358
第３回館蔵品展「自然コレクション」	平11．７．17 ～８．29	38	22,372
累計		138	41,697

●常設展観覧者数（平成２～11年度）



●企画展観覧者数（平成２～11年度）



Ⅶ 施設の概要

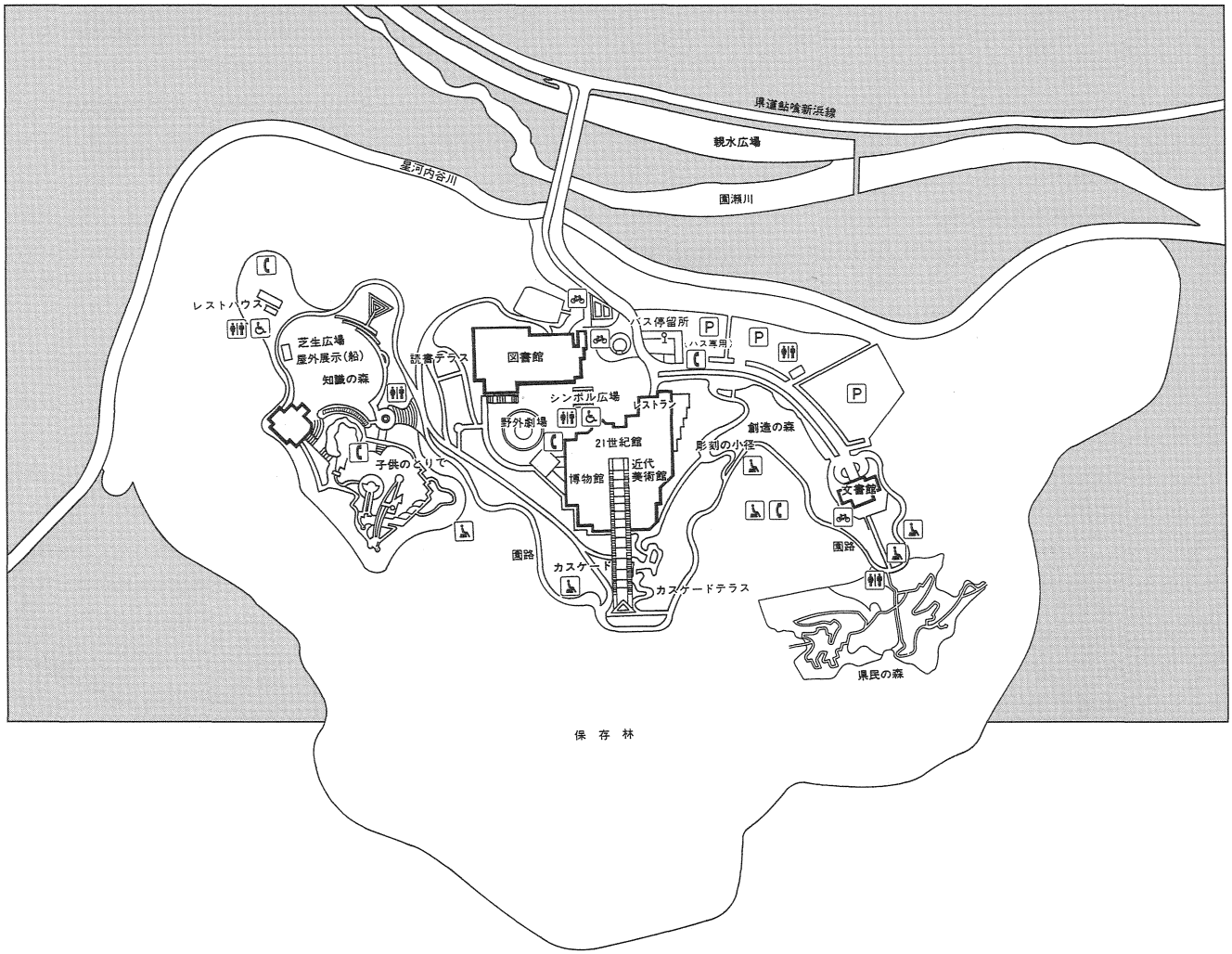
1．沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館
	（旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年１月	文化の森構想発表
４月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年２月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年３月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年３月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年１月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
４月	美術品等取得基金設置
５月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年８月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手
	徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年３月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年３月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
８月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年７月	博物館展示工事着手
平成元年４月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成２年３月	旧博物館閉鎖
４月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成３年２月	博物館資料収集委員会設置
平成４年３月	博物館が、日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く文教施設として指定される
平成８年４月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施

2．施設の概要

●所 在 地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（３館棟）
●延床面積	22,382㎡（３館合計－積層部分を含めると23,814㎡）
	8,133㎡（博物館占用スペース）

●構造規模　　鉄筋鉄骨コンクリート造　地上４階・塔屋１階・地下１階
●設　　計　　㈱佐藤武夫設計事務所・㈱日建設計・㈱環境建築研究所　共同企業体
●施　　行
　建　築 ――― 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組　共同企業体
　電　気 ――― 四国電気工業・近畿電気工事　共同企業体
　空　調 ――― 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ　共同企業体
　管 ――― 朝日工業社・大成設備　共同企業体
　エレベータ ――― ㈱東芝
　家　具 ――― 富士ファニチア㈱
　移動展示ケース ――― ㈱三井
　展　示 ――― ㈱丹青社



3．博物館各室面積

1　階	
室　名	面積m²
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
保存処理室　1	70
その他共用部分※	771
小　計	2,043

2　階	
室　名	面積m²
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小　計	2,957

4　階	
室　名	面積m²
エレベーターホール	45
特別収蔵庫　1	37
特別収蔵庫　2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小　計	1,042

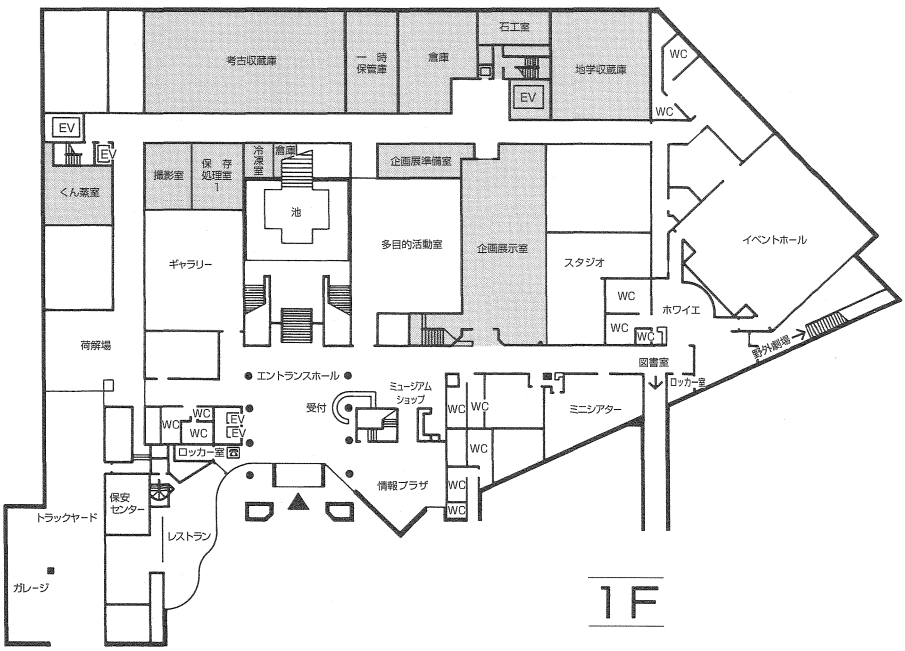
3　階	
室　名	面積m²
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室（自然史）	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室（人文）	80
地学考古民俗作業室	64
分析室　1	64
分析室　2	48
X線撮影室	48
保存処理室　2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小　計	2,052

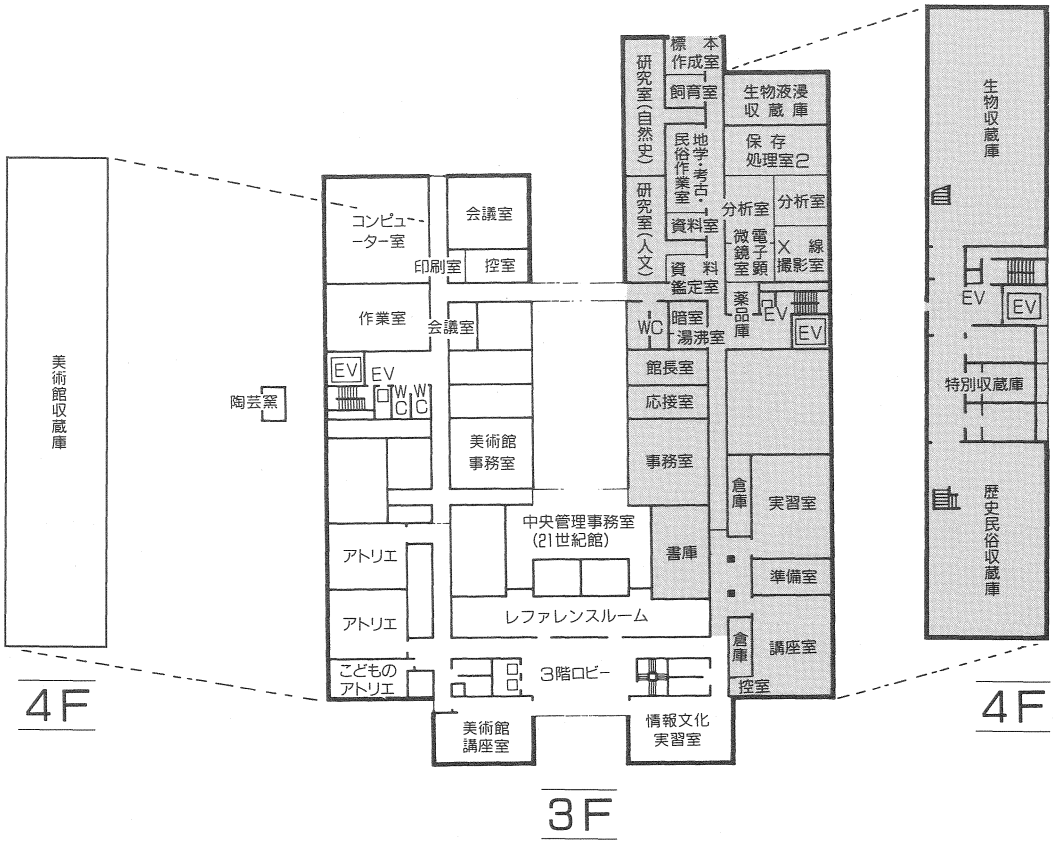
屋　1　階	
室　名	面積m²
その他共用部分※	39
小　計	39

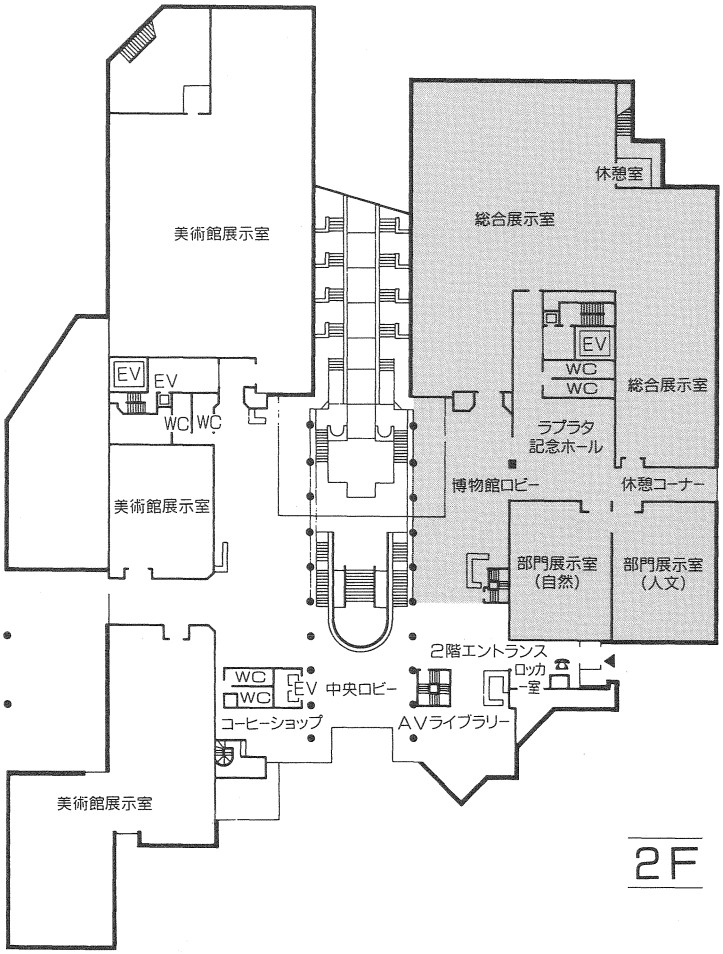
合　計
8.133m²

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。

博物館占用スペース




美術館収蔵庫
陶芸窯
コンピューター室
会議室
印刷室
控室
作業室
会議室
EV
EV
WC
WC
美術館事務室
アトリエ
アトリエ
こどものアトリエ
中央管理事務室（21世紀館）
レファレンスルーム
3階ロビー
美術館講座室
情報文化実習室
研究室（自然史）
研究室（人文）
標本作成室
飼育室
民俗作業室
地学・考古・資料室
資料鑑定室
WC
暗室
湯沸室
館長室
応接室
事務室
書庫
生物液浸収蔵庫
保存処理室2
分析室
分析室
微電子顕鏡室
X線撮影室
薬品庫
EV
EV
倉庫
実習室
準備室
倉庫
講座室
控室
生物収蔵庫
EV
EV
特別収蔵庫
歴史民俗収蔵庫
4F
4F
3F


美術館展示室
EV
EV
WC
WC
美術館展示室
美術館展示室
休憩室
総合展示室
EV
WC
WC
総合展示室
ラブラタ記念ホール
博物館ロビー
休憩コーナー
部門展示室（自然）
部門展示室（人文）
2階エントランス
ロッカー室
WC
WC
EV
中央ロビー
コーヒーショップ
AVライブラリー
2F

Ⅷ　例　規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例［抜粋］

制　　定　平成２年３月26日　徳島県条例第11号
最近改正　平成９年３月28日　徳島県条例第34号

（設置）
第１条　個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。
（名称及び業務）
第２条　文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名　　称	業　　務
徳島県立博物館 （以下「博物館」という。）	(1)　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)　博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)　博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略）

（利用の許可）
第３条（省略）
（観覧料等）
第４条　博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第１に掲げる額の観覧料を徴収する。
２　（省略）
３　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。
４　観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。
（損害の賠償）
第５条　文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。
（職員）
第６条　図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。
（協議会）
第７条　教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

（４館の各協議会の所掌事務は省略）

2　協議会は、委員10人以内で組織する。
3　（省略）
4　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
5　委員は、再任されることができる。
6　前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
（教育委員会規則への委任）
第８条　この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第１（第４条関係）

区分	単位	金額			
		常設展		企画展	
		個人	団体（20人以上をいう。以下同じ。）	個人	団体
小学校の児童及び中学校の生徒	１人１回	50円	40円	知事がその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	１人１回	100円	80円		
その他の者（学齢に達しない者を除く。）	１人１回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定　平成２年３月31日　徳島県教育委員会規則第９号
改正　平成８年３月29日　徳島県教育委員会規則第７号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
（休館日）
第２条　博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
(1)　月曜日　ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
(2)　12月28日から翌年の１月４日までの日
2　徳島県立博物館長（以下「館長」という。）は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。
（供用時間）
第３条　博物館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。
2　館長は、特に必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。
（遵守事項）
第４条　博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。
（入館の禁止等）
第５条　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。
(1)　泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
(2)　前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者
（資料の特別利用）
第６条　学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。
（補則）
第７条　この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定　平成２年３月31日　徳島県教育委委員会規則第４号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）第７条第６項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（会長及び副会長）
第２条　協議会に、会長及び副会長１人を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
３　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（会議）
第３条　協議会の会議は、会長が招集する。
２　協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
３　協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
（雑則）
第４条　この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則［抜粋］

制　　定　昭和45年３月31日　徳島県教育委員会規則第４号
最近改正　平成12年３月31日　徳島県教育委員会規則第13号

第１章　総　則（省略）
第２章　事務局（省略）
第３章　教育機関［博物館に該当する条項のみの抜粋］
第３節　徳島県立博物館
（名称及び位置）
第24条　徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	位　　置
徳島県立博物館	徳島市八万町向寺山

（内部組織等）
第25条　博物館に総務課、自然課及び人文課を置き、総務課に庶務係及び普及係を置く。
2　前項の課及び係の分担事務は、館長が定める。
（業務）
第26条　博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。
(1)　考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
(2)　博物館資料に関する調査研究を行うこと。
(3)　博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
(4)　その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第６節　職及び職務［博物館に該当する条項のみの抜粋］

（所長等の職務）
第32条　教育センター、情報処理教育センター、少年自然の家及び埋文総合センターの所長、文書館、21世紀館及び中央武道館の館長並びに県民運動場の場長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。
（次長等）
第33条　上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教育機関
副館長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館

（教育センターその他の次長は省略）

2　教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、当該機関に属する次長又は副館長が、その職務を代行する。
（主幹等）
第34条　前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主幹	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し特に命ぜられた事項を処理する。
課長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係長	上司の命を受け、係の事務を処理する。
事務主任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主事	上司の命を受け、事務に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

（司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略）

第４章　附属機関

第37条　附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名　　称	位　　置
徳島県立博物館協議会	博物館

（事務局の各審議会、他館の各協議会等は省略）

●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制　　定　平成２年11月３日
最近改正　平成８年４月１日

（趣旨）

第１条　この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第４条第３項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

（観覧料の減免）

第２条　観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。

(1)　小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展観覧料の全額

(2)　身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者（昭和57年１月６日付け社更第４号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。）の介護者（一名に限る。）、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者（一名に限る。）並びに精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者（一名に限る。）が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額

(3)　年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額

(4)　学校週５日制の実施に伴い学校が休業日となる土曜日（毎月第２土曜日及び第４土曜日、祝日を除く。）に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展観覧料の全額

(5)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する祝日及び休日（１月１日を除く。）に観覧するとき。常設展観覧料の全額

(6)　その他徳島県立博物館長（以下「館長」という。）が特に必要と認めるとき。館長が必要を認める額

（観覧料の免除申請等）

第３条　前条第１号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書（様式第１号）を館長に提出し、承認を受けなければならない。

２　館長は、前項の申請を適当と認めたときは、徳島県立博物館観覧料免除承認書（様式第２号）により承認するものとする。

３　前条第２号又は第３号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保険福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第１号及び第２号（省略）

●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制　定　平成３年12月１日

（趣旨）

第１条　この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成２年徳島県教育委員会規則第９号）第６条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

（手続）

第３条　資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第１号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第２号）の交付を受けなければならない。

２　資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

３　館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第３号）を提出させるものとする。

（許可基準等）

第４条　資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

(1)　特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。

(2)　特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。

(3)　寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。

(4)　その他、館長が不適当と認めるとき。

２　資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

(1)　国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設

(2)　社会教育法に定める公民館

(3)　国立の図書館及び図書館法に定める図書館

(4)　学校教育法に定める学校

(5)　その他、館長が適当と認める者

（条件）

第５条　資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

(1)　資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。

(2)　係員の指示に従って資料を取り扱うこと。

(3)　資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。

(4)　特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

（損害賠償）

第６条　資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第１号～第３号（省略）

●徳島県立博物館資料寄託取扱要綱

制　定　平成３年12月１日

（趣旨）

第１条　この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成２年徳島県教育委員会規則第９号）第７条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

（手続）

第２条　徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料寄託申請書（様式第１号）を提出し、資料寄託許可証（様式第２号）の交付を受けなければならない。

２　館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第３号）を交付するものとする。

３　寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

（許可基準）

第３条　館長は、資料の寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

(1)　国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料

(2)　博物館資料として展示等に活用できる資料

(3)　博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料

(4)　その他、館長が特に必要と認める資料

（寄託期間等）

第４条　資料の寄託期間は、５年とする。

２　寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第２条による手続を行わなければならない。

３　寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

４　寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

５　館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第２条による手続を行うものとする。

（寄託資料の特別利用）

第５条　徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

２　第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

（経費等）

第６条　寄託資料の運搬等に要する費用については、寄託者が負担するものとする。

２　寄託資料の保管料については徴収しない。

３　寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

（管理）

第７条　寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第１号～第３号（省略）